

平成27年度

ふくい高校生県議会



福井県議会

ふくい高校生県議会の日程

開催日：平成27年8月24日(月)

12:00～12:20
(大会議室)

オリエンテーション

県議会の概要
本日の日程

12:25～12:40
(第1委員会室)

議会運営委員会

本会議の進め方
質問順序の決定
・福井商業 羽水 藤島 勝山 武生東 北陸
の発言通告(質問要旨の提出)順にくじ引き
(本会議において、議長は、質問を行う高校の
3校後に質問をする高校の議長役が行う。)

12:40～12:55

議事堂の見学

議長・副議長室、議場等を見学

13:00～15:10
(議場)

本会議

県議会議長 あいさつ
議会運営委員会で決定した順に
・議長役が進行
・各高校の議員役が質問
・県議会議員が答弁
・3つの高校が終了後、休憩
県議会副議長 総評

15:20～15:50
(大会議室・中会議室)

意見交換会

2グループに分かれて実施
・大会議室...藤島、勝山、北陸
・中会議室...羽水、武生東、福井商業

15:55～
(議場)

記念撮影

参加高校生名簿

【藤島高校】

チーム名「サラダ記念日」

氏名	学年	備考
かとうふうか 加藤風花	1	
しおざきさおり 塩崎早織	1	議運委員
ふじしまうゆき 藤島卯雪	1	
まえださつき 前田さつき	1	議長 議運委員
なんぶあいり 南部藍里	1	

【武生東高校】

チーム名「HINO」

氏名	学年	備考
すみざきあみ 墨崎有美	3	議運委員
たなかえりい 田中恵里惟	3	
みにくまいか 三國舞花	3	議長 議運委員
みなとさえ 湊紗恵	3	
ふじきちる 藤木千春	3	

【羽水高校】

チーム名「ジュラチック」

氏名	学年	備考
たかだゆうき 高田優希	2	
かきもとさよ 柿本紗世	2	議長 議運委員
みやざきゆい 宮崎優衣	2	議運委員
でぐちゆうと 出口雄十	2	
よしかわはると 吉川陽斗	2	

【福井商業高校】

チーム名「けんとくん」

氏名	学年	備考
はぎはらかおり 萩原かおり香	3	議運委員
はしもとかの 橋本香乃	3	議長 議運委員

【勝山高校】

チーム名「勝山左義長クラブ」

氏名	学年	備考
おくだこのか 奥田このか	2	
たけしまもえの 竹島もえの乃	2	
たどりななこ 田鳥菜々子	2	
たかやなぎりょう 高柳りょう遼	2	議長 議運委員
さかもとみどり 坂本みどり翠	2	議運委員

【北陸高校】

チーム名「F2 12」

氏名	学年	備考
いしだまさと 石田将都	2	議運委員
きのしたけんしょう 木下賢将	2	
お織たななみ 織田菜々美	2	議長 議運委員
かたかすはるな 片粕晴菜	2	
だいらしおり 大良しおり織	2	

備考欄 議長：本会議での議長役、 議運委員：議会運営委員会委員

参加県議会議員名簿

日 程	参加県議会議員
オリエンテーション	笹岡一彦
議会運営委員会	山岸猛夫（議会運営委員会委員長）
議事堂見学	西畑知佐代
本 会 議	<p>挨拶：議長 仲倉典克 答弁者：（各常任委員会委員より）</p> <p>【総務教育】 松田泰典 委員長 小寺惣吉 副委員長 山本正雄 委員 力野 豊 委員</p> <p>【厚 生】 宮本 俊 委員長 田村康夫 副委員長 西本恵一 委員 長田光広 委員</p> <p>【産 業】 中井玲子 委員長 斉藤新緑 副委員長 野田富久 委員 小堀友廣 委員</p> <p>【土木警察】 畑 孝幸 委員長 田中敏幸 副委員長 西本正俊 委員 清水智信 委員</p> <p>総 評：副議長 大久保衛</p>
意見交換会	<p>【参加高校：藤島・勝山・北陸】</p> <p>山本文雄 石川与三吉 松井拓夫 佐藤正雄 糀谷好晃 大森哲男 鈴木宏紀 井ノ部航太</p> <hr/> <p>【参加高校：羽水・武生東・福井商業】</p> <p>山本芳男 関 孝治 中川平一 田中宏典 島田欽一 細川かをり 辻 一憲</p>
写 真 撮 影	参加議員全員（予定）

ふくい高校生県議会 一般質問発言一覧

8月24日(月)

チーム名 (高校名)	説明を求める者の職・氏名	発言要旨	議長役
ジュラチック (羽水)	各常任委員会 委員長 副委員長 委員	1 福井国体以後の選手の育成について 2 元気生活率日本一の実現について 3 観光誘客の促進について 4 通学路の安全確保について	HINO (武生東) 三国 舞花
F2-12 (北陸)	各常任委員会 委員長 副委員長 委員	1 福井県内の交通アクセスについて 2 福井県の新たな魅力発信について 3 外国人旅行者の受け入れ環境の整備について 4 福井駅前広場の整備について	勝山左義長 クラブ (勝山) 高柳 遼
サラダ記念日 (藤島)	各常任委員会 委員長 副委員長 委員	1 福井県内の進学環境の充実について 2 県の花粉症対策について 3 県の観光戦略について 4 県内の安全対策について	けんとくん (福井商業) 橋本 香乃
休 憩 (10分)			
HINO (武生東)	各常任委員会 委員長 副委員長 委員	1 福井国体に向けた、人材の確保と教育について 2 原子力・エネルギー対策について 3 恐竜博物館について 4 豪雪時の交通対策について	ジュラチック (羽水) 柿本 紗世
勝山左義長 クラブ (勝山)	各常任委員会 委員長 副委員長 委員	1 人口減少対策について ・子育て支援・結婚対策について ・若年人口の減少対策について 2 福井県全体での観光客増加に向けた取り組みについて 3 山林の環境保全について	F2-12 (北陸) 織田 菜々美
けんとくん (福井商業)	各常任委員会 委員長 副委員長 委員	1 福井県に人を呼び寄せる方法について 2 観光に関する具体的な方策について	サラダ記念日 (藤島) 前田 さつき

オリエンテーション

オリエンテーションでは、笹岡議員から、議員定数、歴代議長・副議長、県議会のしくみ、議会の流れ、委員会の概要、執行機関と議決機関の関係、当日の日程等についての説明がありました。



議会運営委員会

各高校を一つの会派と見なし、それぞれの高校から代表者2名ずつを委員とし、そのほかの高校生は委員外議員として、議会運営委員会を開催しました。議会運営委員会では、山岸議会運営委員会委員長の進行のもと、「本日の本会議の運営について」、「本会議の議席の指定および説明者の配席について」、「一般質問の発言順序および議長役の順序の決定について」を議題として審査しました。



議事堂見学

西畑議員の案内により、全参加高校生が委員会室、全員協議会室、議長・副議長室、議場等の見学を行いました。



本 会 議

「ふくい高校生県議会」の本会議の議事録を掲載します。

小寺事務局長　ただいまから、ふくい高校生県議会を開催いたします。
まず初めに、仲倉福井県議会議長より御挨拶を申し上げます。

仲倉福井県議会議長　皆さん、こんにちは。私は、福井県議会議長の仲倉典克です。ふくい高校生県議会を開催するに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。



本日参加をいただいております高校生の皆さんは、法律の改正によりまして、選挙権が18歳まで下げられたことは御承知のこととっております。しかしながら、全国的に若者の選挙離れが進んでおりまして、非常に心配をいたしているところでございます。いずれにしましても、皆さんはもう数年で選挙権を得て、そしてまた、成人の仲間入りをしていくわけでありますけれども、これから政治離れが進まないように、我々県議会としてもいろいろなことを考

えながら、きょうは初めてでありますけれども、ふくい高校生県議会という形で県議会を開催するに至りました。

きょうは、6つの高校から合計27名の皆様方が志願いただいて、このような形で集まってくれました。大変うれしく思っております。非常に緊張されている方も多いと思いますけれども、しっかりとした県議会議員ばかりが立派な答弁をさせていただく予定になっておりますので、日ごろ思っていることを、この場所で率直に、積極的に発言いただき、また、きょうのやりとりの中で、県議会の取り組みや、我々の身近なところで何が決まっていくのか、どのように決まっていくのか、そういうところもぜひとも十分に勉強していただきたいと思っております。

このような貴重な機会をいただくに当たりまして、御協力を賜りました学校の先生方、父兄の皆様方、そして関係各位の皆様方に、改めて御礼を申し上げまして、開会に当たりましての御挨拶にかえさせていただきます。どうか皆さん頑張ってください。

小寺事務局長　それでは、最初の議長を武生東高校、チーム「HINO」の三国君に務めていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、三国君、議長席にお着きいただきたいと思っております。

ふくい高校生県議会 開会

三国議長　武生東高校、チーム「HINO」の三国です。よろしくお願いいたします。

平成27年度ふくい高校生県議会は、ここに成立いたしましたので、これより開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしましたとおりと定め、直ちに議事に入ります。

まず、日程第1の議席の指定を行います。

議席は、ただいま御着席のとおり指定いたしますので、御了承願います。

次に、日程第2、会期決定についてを議題といたします。

ふくい高校生県議会の会期を本日一日と定めたいと存じますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

三国議長 御異議なしと認めます。よって、そのように決定いたしました。

次に、日程第3を議題といたします。

これより県政全般にわたる質問に入ります。よって、発言は、お手元に配付いたしました発言順序のとおり願います。

チーム「ジュラチック」、高田君、柿本君、宮崎君、出口君、吉川君。

高田議員 羽水高校、チーム「ジュラチック」の高田です。

私は、2018年の福井国体以後の選手の育成について質問しますので、よろしく願います。

国体の目的として、「広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を目指し、地方スポーツの振興と地方文化の発展を図る」とありますが、福井県は平成26年度の長崎国体で総合17位の好成績をおさめ、十分目的を達成していると考えます。

福井県では、選手力の強化として、選手と企業のマッチングを行う無料職業紹介サイト「スポジョブ福井」を開設し、200人超のU・Iターン実現を目標としています。

一方で、福井県は、独自の体力テストや業間体育に力を入れることで、子供の体力日本一を維持してきました。

そこで、お伺いします。

福井国体後も引き続き選手を育成していくためには、選手力の強化の取り組みに加えて、体力日本一の子供たちに各競技に興味関心を持ってもらい、それぞれの競技に子供たちを振り分けていくシステムづくりが必要だと考えますが、どのような政策が考えられるか、お聞かせください。

私の場合、ボクシングを始めたのは、プロのボクシングの試合をテレビで見て、「カッコいいな」と思ったのがきっかけでした。

また、子供たちの体力をさらに高めるため、「子どもの新スポーツ」を開発してはどうかと考えますが、お考えを伺います。

宮崎議員 宮崎です。

私は、元気生活率日本一の実現について質問しますので、よろしく願います。

福井県は、平均寿命が全国トップレベルであると言われていました。

その理由として、食べ物がおいしいことや、水がおいしいことがあると思います。

私の家では、夕食のおかずには豆類や芋類が多く出ますし、私の好きなオムライスには野菜がたっぷり入っています。もちろん、福井県産です。これは、石塚左玄先生の提唱する身土不二の考えに



通じています。

また、杉田玄白が書き残した養生七不可の内容を実践する生き方をする人が多いと考えられるほか、平成23年の社会生活基本調査報告によると、15歳以上のボランティア活動の年間行動者率が全国11位であることから、奉仕の精神も長寿をサポートしていると考えられます。

福井県におきましても、最先端のがん治療、手軽ながん検診、医療を支える人材の確保と育成、全国初となる65歳以上の定年齢認知症検診の導入など、長寿を支えるさまざまな取り組みを行っています。

そこで、お伺いします。

現在、県は、介護を必要としていない高齢者の割合を示す元気生活率を日本一とするため、科学的知見・データを活用し、運動・栄養・社会参加の県民運動に取り組んでおられますが、この運動を県民が年間を通して継続できるよう、また、取り組みに対する高いモチベーションを維持できるよう、どのように取り組んでいくか、お考えを伺います。

出口議員 出口です。

私は、観光誘客の促進について質問しますので、よろしくお願いいたします。

福井県では、この4年間で、一乗谷朝倉氏遺跡やあわら温泉、若狭歴史博物館、道の駅などを整備し、観光客数が1,000万人台にまで回復しました。

しかしながら、より一層、観光客を呼び込むためには、改善すべき点が幾つかあると考えられます。

そこで、2点お伺いします。

まず1点目ですが、交通アクセスの問題です。

先日、母と妹が金沢に遊びに行ったのですが、「絶え間なく来るバスを有効に使い、行きたいスポットにどんどん移動しながら、充実した一日を過ごすことができた」と言っています。

福井県が誇る重要な歴史資源である福井城跡を一大観光スポットとして整備した上で、福井の食、恐竜など、福井駅から福井一押し場所に観光客を誘導できるアクセスが繋がれば、県都福井のみならず、県内観光地全体の活性化につながると考えますが、お考えを伺います。

次に、2点目ですが、福井県の魅力発信についてです。

福井県が観光誘致の努力を重ねているにもかかわらず、県民はそのことを余り知りません。

先日、東京に行った羽水高校の先生が、「上野駅に巨大な恐竜の垂れ幕がかかっていた。そこには恐竜王国福井と書かれていた。また、山手線に乗っていたところ、父親同士が、家族で恐竜博物館に行った話をしていた」と言っていました。私自身、県がそのように大々的に恐竜を売り込んでいることを知りませんでした。

県民が、福井県の魅力を理解し、一人一人が観光ブランド大使の自覚を持って行動すれば、それは観光誘客の促進につながると考えますが、お考えを伺います。

吉川議員 吉川です。

私は、通学路の安全確保について質問しますので、よろしくお願いいたします。

福井県警察が発表している「福井県の治安情勢」によると、平成26年の福井県の窃盗犯検挙率は56.4%であり、47都道府県のうち3位でした。

福井県は、人口当たりの警察官数が全国トップクラスであり、地域総ぐるみの「子どもの見守り活動」やスロードライブ運動により、事故・死傷者数は、ここ4年間で3割以上減少しています。

現在、福井県では、治安のさらなる向上に向けて、「安全・安心ふくい」万全プランとして、制服警察官による「見える・見せる活動」プロジェクト、「特殊詐欺撲滅！県民大作戦」、子供・女性の安全強化、通学路や高齢者の安全確保に取り組んでおられます。

さらに、今後は、「子どもを見かけたらスローダウン」の県民運動や、通学路での自転車安心通行帯の整備といった施策に取り組んでいくとのことでした。

私の友人は、自転車に乗っているとき、車とぶつかり、腰と両腕を骨折するという大変危険な目に遭いました。これらの施策が実現すれば、通学路の安全確保に有効だと思いますが、一方で、なかなか難しい問題であると考えられます。

そこで、お伺いします。

どのようにして「子どもを見かけたらスローダウン」の県民運動や、自転車安心通行帯の実現を図るのか、数値目標等も含めて、お考えをお聞かせください。

以上で、私たちの質問を終わります。

三国議長 総務教育常任委員会副委員長、小寺君。

小寺総務教育常任委員会副委員長 総務教育常任委員会副委員長の小寺でございます。

高田議員の福井国体以後の選手の育成についてお答えをいたします。



議員が言われるとおり、福井国体は、大会の開催だけが目的ではなく、国体を契機に、さまざまな専門スポーツを県内で盛んにしていくこと、県民にスポーツに親しんでもらうことにも目的があると考えています。

「子どもの新スポーツ」ということで、非常におもしろい御提案をいただきましたが、これまで県においても、マレットゴルフなどの独自の新スポーツを開発してきました。

国体行事では、このマレットゴルフを初めとする、県民の誰もが参加できる競技をデモンストレーションスポーツとして、県内の全市町で開催することとしております。親子や3世代で参加する部門も開催する予定で、家族と楽しみながらスポーツに参加し、子供たちがスポーツを始めるきっかけになることを期待しております。

また、自分に合った競技と出会えるように、小学校での放課後スポーツの体験会や中学校での国体競技体験会も実施していきます。

このように、子供たちにスポーツに触れる機会を提供し、みずから競技を選び取ることができるよう、支援することも有効ではないかと考えております。

また、高田議員のように、プロの選手の試合を観戦することが競技を始めるきっかけになることもあると思います。

県は、国体で整備した施設を活用し、スポーツの大会誘致を積極的に進めるとしてしています。トップレベルの選手の競技を目の当たりにして、競技を始める子供たちがあられるのではないかと考えています。

いただきました御意見を踏まえ、委員会においても、選手育成の観点から、県の施策について議論を深めてまいりたいと考えております。

三国議長 厚生常任委員会委員長、宮本君。

宮本厚生常任委員会委員長 宮崎議員の元気生活率日本一の実現についてお答えいたします。

議員御自身も、御家族を含めまして、健康的で、食生活を気にされているようでありまして、本県の「元気生活率」向上についても大いに貢献いただけるものではないかと、頼もしく思っている次第であります。

年間を通して県民運動を継続していくためには、県民一人一人が、ウォーキングやラジオ体操といった運動や、健康的な食生活を習慣にすることが重要だと考えております。

皆様にも、一人では続かないという経験がおりになるかもしれませんが、モチベーションを維持し、継続していく上では、やはり仲間の存在というものが大きいと考えております。

県では、県民の健康づくりを支援するために、各市町の健康づくりの担当、担い手としまして、「わがまち健康推進員」を創設し、県の目標としましては、平成27年度に2,700人、平成30年度までには4,000人に「わがまち健康推進員」になっていただこうと計画中であります。

市町と連携しまして、地域の自主的な健康活動を活性化していく努力をしていきたいと考えております。

「わがまち健康推進員」の方々のリーダーシップ、そして、支援、サポートによりまして、地域ぐるみで健康づくりに取り組むことになれば、仲間としての県民運動が継続から習慣へと定着していくのではないかと期待をしております。

また、継続の秘訣は、つらいことを続けていくことではなくて、やはり楽しいこと、楽しむことが挙げられると思います。県では、認知症の対策として、今回、県内大学と協力して、県民の誰もがふだんの生活の中で楽しみながらできる本県独自の認知症の予防メニュー これは食べ物のメニューという意味ではなくて、食べ物のみならず、お勧めできるような行動パターンをお示しするものとなると考えておりますが これを作成・普及しまして、予防対策を推進していくことが重要であると考えております。

今後も、高齢者の方のみならず、あらゆる世代の県民の方々が、この運動に参加できるように、厚生常任委員会におきましても、引き続き注視をしていきたいと考えております。

三国議長 産業常任委員会副委員長、斉藤君。

斉藤産業常任委員会副委員長 出口議員の観光誘客の促進についての御質問でございますが、非常に御指摘、御提言、的確なものと思っており、以下にお答えを申し上げます。

まず、1点目の福井城址の整備と交通アクセスについてでございます。

県では、次の時代に受け継ぐ県都のまちづくりの指針として、県都デザイン戦略を策定し、福井城址を重要なポイントとして位置づけ、短期的・長期的な整備を行っていくこととしております。現在、山里口御門の復元や、福井市が行う歴史を生かした中央公園再整備への支援などを行っている



ところであります。

今、議員の御家族の御体験のお話もございましたが、御指摘をいただきました観光地間のアクセスの向上については、極めて重要なこととございまして、特に、高齢者、学生の方など、車を利用されない方においては、公共交通機関の利便性ということが大きな課題でございます。



そうした面で、県がことし3月に発表しました福井県観光新戦略では、民間事業者に対し、公共交通機関のダイヤ調整による乗り継ぎ時間の短縮や、スマートフォン等の乗りかえ検索アプリへの対応を推進するよう求めていくほか、県内の主要駅と観光地等を結ぶ「一押しバスツアー」の充実を図っていくことを考えており、今、努力をしているところでございます。

それから、次に、福井県の魅力を理解して、一人一人が観光ブランド大使の自覚を持って行動すれば、もっとよくなるのではないかと御指摘でございますが、まさに、そのとおりでございます。

ただ、この場合、観光というものはなぜ必要なのか、ここに物事を考えていく上で重要なポイントが一つあるかと思えます。

例えば、観光に来ていただいたデメリットを考えていただくと、混雑をするとか、ごみをやたら置いていくなどということになりましょうし、メリットは何かと考えていただくと、福井県の大きな財産などを見ていただいたり、それから、産業としての農業とか漁業とか、いろいろなものがこの観光につながっていくということでございまして、そういう価値を県民一人一人が理解して、単に観光といえばお土産屋さんとか、宿泊をする方とか、観光業種に限られたものであるということではなくて、それによって福井県全体がよくなっていくという認識をお一人お一人みんなが持っていただくことによって、先ほど指摘されましたように、一人一人が観光ブランド大使になっていくんだという位置づけができると思えます。

今、各地には、100万人観光地の東尋坊や「恐竜」を含めてさまざまございますけれども、福井県に隠れたいろいろな財産や魅力を、県民全体が理解し合って、発信していくことが重要かと思っておりますので、こうしたことも、出口議員を含めまして、チームの皆さんも一緒になって、今後ともぜひ御協力をいただきたいと思えます。

委員会におきましても、いただいた御意見を参考にして、観光地へのアクセス向上、それから、県民総ぐるみの観光発信について、精いっぱい努力していきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

三国議長 土木警察常任委員会委員、西本正俊君。

西本正俊土木警察常任委員会委員 吉川議員の通学路の安全確保についてお答えをいたします。

議員の御友人も、自転車に乗っていた際に事故に遭われたとのこととありますが、通学路の安全対策は重要な課題であります。とりわけ、ドライバーの皆さん一人一人が安全運転を心がけることが、事故防止には欠かせないと考えております。

「子どもを見かけたらスローダウン」県民運動についてであります。今年度から毎月1日を「交

通ルール遵守・マナーアップの日」と定め、15秒のテレビスポットCMを放送し、県民に対して広報・啓発活動を行っております。

また、ステッカーを作成し、各事業所の社用車に張りつけてもらうことで、意識を高めてもらうこととしているところであります。

さらに、民間業者が無料で提供しているスマートフォン用の安全運転支援アプリの説明会を開催し、利用を促進することで、県民運動を展開していくこととしているところであります。

なお、数値目標につきましては、担当部署によりますと、現在のところ、目標設定までは至っていないとのことでございます。

自転車安全通行帯につきましては、自転車専用レーンの整備や自転車通行帯をマーク等で明示することで、通学路等の安全性を確保していくほか、自転車が通行可能な歩道について、車道との段差の解消や、不要な標識の撤去を行うことにより、実現を図っていくこととしております。

なお、今年度中に計画を策定する予定でありまして、今後、計画の中で数値目標を設定していくこととしております。

土木警察常任委員会といたしましても、皆さんが事故に巻き込まれることのないよう、引き続き、通学路の安全対策について、議論していきたいと思っております。

三国議長　ここで、勝山高校、チーム「勝山左義長クラブ」の高柳君に議長を交代します。ありがとうございます。

高柳議長　チーム「勝山左義長クラブ」の高柳です。よろしくお願いします。
チーム「F2-12」、石田君、木下君、織田君、片粕君、大良君。

石田議員　北陸高校、チーム「F2-12」の石田です。
私は、福井県内の交通アクセスについてお伺いします。

私が通学の際に利用する福井駅行きの電車は1時間に1本ほどしか運行されていないため、不便を感じています。

北陸新幹線が、早ければあと5年後に福井駅まで開通するとも言われていますが、これにより、県外からの福井県へのアクセスがよくなるため、福井県を恐竜でPRして活性化を目指すのはとてもよいことだと思います。しかし、福井県に住む自身が交通アクセスの不便さを感じているため、都会から観光に訪れる方々は、本県の公共交通機関の実態に困惑するのではないのでしょうか。

北陸新幹線を利用して福井県を訪れる人は、バスや電車などの公共交通機関を使って福井県の観光名所に行くと考えられます。例えば、今話題の恐竜博物館に行くためには、福井駅から1時間に



2本しか電車が運行されておらず、東尋坊に行くためにはJRの最寄駅となる芦原温泉駅から1時間に1便、一乗谷朝倉氏遺跡にいたっては2時間に1本しかバスが運行されていません。

また、交通アクセスが悪いと、観光地に訪れるのも大変であり、福井県を訪れた人が、もう一度福井県へ来ようとは思わなくなるかもしれません。

そのため、県内の公共交通機関の利便性向上について検討すべきではないかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

木下議員 木下です。

私は、福井県の新たな魅力の発信についてお伺いします。

現在、福井県では、恐竜を前面に押し出して観光PRを行っています。駅前に恐竜のモニュメントを設置したり、JR福井駅の駅舎に恐竜のイラストのラッピングが行われたりと、さまざまな取り組みが行われていると思います。

しかし、私は、恐竜を前面に押し出しても、観光誘客には余りつながらないと思います。理由としては、私たち10代や20代の若者は余り興味がないと思うからです。実際、私は恐竜について友達と話したことはありません。

そこで、私は、若者の興味を引くような御当地アイドルグループの結成を福井県で企画するべきだと思います。

SKE48、NMB48、HKT48などは地域貢献をコンセプトにしている、地域へのイベントには積極的に参加しています。福井県にも同じようなアイドルグループをつくり、例えば、福井県の御当地ソングの発表や全国的にも有数の技術を持つ地元企業とのタイアップにより、福井県をPRしていくことが可能だと思います。彼らが全国的に有名になれば、握手会やイベントに参加するために、より多くの人々が福井県を訪問するようになり、観光誘客にもつながると考えます。

また、子供たちのなりたい職業の調査では、女の子の6位がアイドル・歌手となっており、憧れでもあります。県外から観光客を誘客し地域活性化を図ると同時に、県民に夢や希望を与えることができるグループを県全体で育てていくのもいいと思います。

恐竜やゆるキャラでのPRもいいと思いますが、私は、同じ世代の若者が発信する情報によって福井県をPRし、観光誘客につなげていく方法もあるのではないかと考えています。この点に関して、考えを伺います。

大良議員 大良です。

私は、外国人旅行者の受け入れ環境の整備についてお伺いします。

私が前に耳にしたことのあるニュースによると、北陸新幹線の開通により金沢の観光客がふえたということです。実際、先日、私が金沢に行ったとき、駅や駅前にはたくさんの人でにぎわっていました。その中には外国人も多数いました。

現在予定されているとおり、2025年に福井県に北陸新幹線が開通すると、福井県にも外国人観光客がふえると思います。来福された外国人に満足してもらえるように、これからどのように対応するかが大事だと思います。その方法の一つとして、福井県が独自に考える言語面でのサポートも必要と考えます。

まず初めに、観光地へ行くための電車やバスの乗り方も外国人にわかりやすく表示するべきだと思います。駅やバス停の表記や案内文を、英語だけでなく、アジアの言語でも表記したり、駅に各国の言語で書かれた地図を置いたりしてはどうでしょうか。

次に、小学校・中学校・高校での言語教育をより充実させることで、英語による生徒のコミュニケーション力を強化してはどうかと考えました。そのため、生徒と外国人教諭との交流、英語キャンプ等をこれまで以上に盛んにすることや、県が主催する語学研修プログラムをふやしたり、また、アジアからの観光客も多いため、英語だけでなくアジアの言語教育にも力を入れていくといいのではないかなと思います。

この2点について、お考えを伺います。

片粕議員 片粕です。

福井駅前広場の整備についてお伺いします。

現在の福井駅前広場は、せっかく観光客が訪れても、宣伝できるものがない気がします。駅周辺は、県の経済や人の流れの中心地です。福井県の顔と言えるこの場所をもっと大切にするため、また、観光客だけでなく、地域の人も多く集まるような、にぎやかな場所になってほしいと思っています。

そこで、私は、もっと人が集まりそうな施設にしたほうがいいのではと思いました。例えば、駅前のスペースは十分な広さがあるので、公園にするのはどうでしょうか。そうすれば、老若男女、さまざまな人々が集まりやすくなると考えます。そのスペースに福井の花であるスイセンやアジサイを植えたり、その場にふさわしい大きさの恐竜のオブジェを置くなど、アピールできることを集めるのはどうでしょうか。

例として、石川県の金沢駅には「もてなしドーム」がつけられました。金沢駅は、北陸新幹線の停車駅であり、「もてなしドーム」はそこと直結しています。デザイン的にインパクトもあり、休憩所もたくさんあるので、観光客、地元の人ともに集まりやすい場所となっています。

福井県にもそんな場所をつくったほうがいいのではと考えますが、お考えを伺います。

以上で、私たちの質問は終わります。

高柳議長 総務教育常任委員会副委員長、小寺君。

小寺総務教育常任委員会副委員長 石田議員の福井県内の交通アクセスについての質問についてお答えいたします。

県内の公共交通機関の現状は、石田議員が調べていただいたとおり、運行間隔や接続の面で、電車や場所の利便性がとても劣っていることについては、私も同感でございます。

そこで、県では、少しでも公共交通機関の利便性を高めるために、鉄道沿線自治体や鉄道事業者とともに新たな取り組みを始めております。

例えば、皆様が通う学校近くの田原町駅では、えちぜん鉄道と福井鉄道という異なる会社の車両が互いに乗り入れできるようにするために、現在工事が進められており、工事完了後には、えちぜん鉄道・鷺塚針原駅と福井鉄道・越前武生駅間で乗りかえなしで移動することが可能となります。

また、乗客の多いえちぜん鉄道・鷺塚針原駅 - 福井鉄道・浅水駅間では、相互乗り入れにより運行本数をふやし、利便性向上を図る予定になっております。

さらに、観光客に県内の有名な観光地を周遊して観光してもらえるように、観光周遊バスの実証運行を行っており、公共交通機関を補充する取り組みについて検討しているところであります。

いずれにしても、公共交通機関の利便性の向上については、県民のためになるだけでなく、観光客にとっても、本県に来県していただく検討をする重要なポイントとなるかと思われまますので、

本議会や委員会などでしっかりとした審議を行い、県の取り組みがよりよいものになるように議論を深めてまいりたいと考えております。

高柳議長 厚生常任委員会委員長、宮本君。

宮本厚生常任委員会委員長 木下議員の新たな魅力発信についての質問についてお答えいたします。

まず、御指摘がありました恐竜についてですけれども、国内の8割以上の恐竜化石が本県で産出されていることから、恐竜を福井のトップブランドとして、全国に広くアピールをしております。恐竜博物館の昨年度の年間観覧者数が70万人を超えまして、国内有数の観光地として注目されており、現に夏休み中の恐竜博物館周辺は、家族連れの車で大変混雑していることから、その注目度の高さがうかがえると感じております。

恐竜という分野ですけれども、映画「ジュラシックパーク」のヒットからも、多くの世代に関心が得られるテーマであるのではないかということで、県としても注力しているところでございます。

また、御提案いただきました若者世代によります、若者世代を対象とした福井県のPRについて、特に御当地アイドル、いわゆるローカルアイドルの開発 議員のイメージでは、FKI48のような感じだと思うのですけれども、こういった分野は、秋元康氏のような才能あるプロデューサーが時間と大きなお金、プロモーション費用をかけて、初めてヒットする状況であると思っております。

また、現在、御当地アイドルのデータベースがあるわけでございますけれども、あるホームページでは、352組、1,104名の情報が掲載されており、非常に競争の激しい分野にもなっているとのこと。もちろん、議員御指摘のとおり、福井県のPRに対しまして、ビッグになった御当地アイドル、ローカルアイドルが利用されることは極めて有効であり、効率的なPR活動が行えると考えておりますが、そこまでの育成という面では、多くの課題があるかと考えております。

また、御当地アイドルの成功といいますが、こういった育成の成功ですけれども、いわゆる役人が考える自治体主導による育成では、ほとんど成功が見られていないということで、ご存じのように、「ふなっしー」も非公認のキャラクターであるがために、これだけビッグになれたということもあるようでございます。そういった背景から、民間ベースのプロモーションに県がバックアップしていくような形であれば、大きな可能性はあるかと考えております。

いずれにしても、恐竜ブランドをターゲットする年齢層とは異なる、特に若年層へアピールする内容や情報発信の手法については、今後も検討していく余地がある、そういった必要があると考えておりますので、ほかにも斬新なアイデアがありましたら、県に御提案をいただきたいと感じている次第です。

高柳議長 産業常任委員会委員、小堀君。

小堀産業常任委員会委員 大良議員の外国人旅行者の受け入れ環境の整備についての質問にお答えいたします。

外国人観光客は、2014年に1,300万人を突破し、10年前と比べると倍増しており、訪日外国人旅行者の日本滞在中の消費額は2兆円を超え、外国人を対象とした観光振興に本格的に着手すべき時期を迎えております。

それに伴い、本県においても、外国人旅行者を受け入れるための基盤整備を進めております。

観光案内の看板については、英語での表記を県内で統一する取り組みを始めています。しかし、この取り組みはまだ始められたばかりで、その他の言語については、まだ対応がなされておられません。



その他には、外国人観光客は情報の検索にスマートフォンを活用することから、県内の主な観光地や宿泊地におけるWi-Fi環境の整備にも取り組んでいます。

また、現在、社会のグローバル化がますます進み、英語の高いコミュニケーション能力が求められています。本県においても、受験のためだけでなく、聞く、話すという使える英語力を高めるためのより実践的な英語教育に力を入れております。

また、訪日外国人旅行者が年々増加する中で、台湾、韓国など、アジア圏の外国人も多く訪日していることから、大良議員の御指摘のとおり、英語以外のアジアの言語教育にも目を向けていくことは、今後必要であると思われまます。

また、語学力以上に必要なものは、おもてなしの心です。そして、さらに、日本語で考える能力を培うことであります。大良議員も今後、読書をされ、教養を深められて、語学力を向上し、真心のおもてなしで、外国人観光客と接せられることを望みます。

今後、委員会におきましても、福井県のすばらしい食、文化、おもてなしの心が外国人観光客に届くような受け入れ環境の整備について、議論していきたいと思っております。

高柳議長 土木警察常任委員会委員、清水君。

清水土木警察常任委員会委員 片粕議員の質問に答えたいと思います。我が母校の後輩ですので、ちゃんと答えたいと思います。

JR福井駅を中心とした市街地は、言うまでもなく、県民の生活、文化、伝統が集まった、まちの顔であり、交流の場であります。その中心市街地の衰退が全国的な課題となっている中、かつてのにぎわいを取り戻し、活性化を図る動きが高まっており、それは福井県も例外ではありません。

そのため、福井県においては、福井駅西口中央地区市街地再開発事業の一環として、平成28年に県都の玄関口となる福井駅前広場が新たに生まれ変わる予定になっております。

バスターミナルの設置や福井鉄道の延伸により、公共交通機関の乗りかえにかかる距離と時間が短縮されるために、公共交通機関が利用しやすくなります。

また、イベントを実施することが可能な屋根つき広場も設置されることとなっております。大きなひさしを伸ばした屋根や三面をガラスの壁に包まれた広場は、天候にかかわらず使用すること



が可能であるため、にぎわいづくりの拠点としてだけでなく、行き交う人が誰でも立ち寄ることができる憩いの場になるように、県としても期待しております。

ただ、私自身の考えでもありますけれども、場所をつくるだけでは、やはり人のにぎわいや動線はこのまま変わらないと思います。その場所で、広場で何が起きているのか、みんなが集まれるような、わくわくするような、いろんなイベントが行われなければならないと思いますので、この広場がより生かされるよう、若い皆様のアイデアと実行力を持ち寄っていただき、福井駅前のにぎわいづくりの一翼を担っていただけることを期待しております。

高柳議長　ここで、福井商業高校、チーム「けんとかん」の橋本君に議長を交代します。ありがとうございました。

橋本議長　福井商業高校、チーム「けんとかん」の橋本です。よろしくお願いします。
チーム「サラダ記念日」、加藤君、塩崎君、藤島君、前田君、南部君。

塩崎議員　藤島高校、チーム「サラダ記念日」の塩崎です。

私は、福井県内の進学環境の充実について質問しますので、よろしくお願いします。

近年の県の調査によりますと、県内高校生7,600人のうち県内の大学・短大等に進学したのは約2,200人、県外の大学・短大などに進学したのは3,400人という結果です。県外に進学した主な理由としては、「県内の大学に魅力がない、希望する学部がない」、「学力に見合う大学に進学したい」などの回答が得られています。また、県外に進学した学生のうち、県内に就職したのは、わずか1,000人です。つまり、県内の大学の魅力不足のため、我が県は深刻な人口流出問題を抱えていると言えます。

現在、県内には7つの大学・短大が存在します。大学の学部は、人間学部、人間生活学部、医学部、看護学部、看護福祉学部、スポーツ健康科学部、経済学部、生物資源学部、海洋生物資源学部、工学部、環境情報学部、教育地域科学部の12学部、短大は、リハビリテーション学科、看護学科、生活科学学科、幼児教育学科の4学科です。系統が似た学部が幾つもありますが、文学部や法学部などは全く存在しません。

大学は最終学歴です。進学した大学によって就職やこれからの人生が大きく左右されます。このため、進学する大学を妥協することは、大げさかもしれませんが、自分の未来についても妥協してしまうこととなります。このことを踏まえて考えると、福井県内には、大学そのもの、また、学部・学科についても選択肢がごく少ないと言わざるを得ません。

そこで、県内の大学の魅力をアップし、進学の選択肢をふやすために、県外の有名大学と県内の大学の単位互換を進めたり、新たな学部の設置について県が援助することなどにより、県内における進学環境の充実を図ってほしいと思いますが、お考えを伺います。

藤島議員　藤島です。



花粉症対策についてお伺いします。

私の友達にはスギ花粉アレルギーの人が多く、私も山の近くに住んでいるせいか、重度の花粉症で、毎年悩まされています。

製薬会社のホームページによると、近年、特にスギ花粉症の患者が増加しており、推定3,000万人以上、国民の約4分の1がスギ花粉症と考えられるそうです。また、厚生労働省のホームページによると、スギ花粉症の症状がある人は全国で20%を超えるとの報告もあり、スギ花粉症が問題となっているのは、ほとんど日本だけということでした。

ここまで患者が増加した理由は、スギ花粉の飛ぶ量がふえたためです。日本では、戦後、建築材料にするため、たくさんのスギが全国で植えられました。しかし、価格の安い木材が輸入されるようになると、スギの手入れが余りされなくなりました。すると、間伐されなくなったスギは、たくさんの花粉を放ちます。

そこで、私は、根本的に花粉を飛ばすスギを減らせばいいのではないかと考えて調べたところ、福井県のホームページで「ふくい森づくり整備計画」というものを見つけました。その内容は、間伐をふやすとともに、花粉の量が少ない花粉症対策苗木をふやすことによって花粉の少ない森林へ転換するということです。平成31年度までの5年間で、花粉症対策苗木を現状のゼロヘクタールから24ヘクタールまで増加させるとのことです。この計画について、今年度はどの地域にどの程度植栽する予定なのか、進捗状況を伺います。

また、花粉症対策としては、マスクやうがいなど、花粉に触れないようにすることや、病院での治療法も新しい根本的治療法が研究されたりしているようですが、福井県として進めている花粉症対策があれば教えてください。

加藤議員 加藤です。

県の観光戦略についてお伺いします。

現在、県としては、2018年の国体や北陸新幹線開通に向けたさまざまな観光事業を展開していると思います。例えば、恐竜をもとにしたキャラクターをつくり、そこからグッズなどに発展させていくなどです。県が行う以外の企画では、最近、「福井県プロジェクト」という福井県の井をPRする活動がメディアに露出してきています。このような事業は進めていくべきものだと思いますが、1つ問題があるように思われます。

それは、そもそも、福井県民が福井県のことをしっかり知っているのだろうかということ。 「福井県」について、数人に「どれくらい福井県の井を知っているか」を聞いたところ、挙げられたのは平均二つでした。このことから福井県民でも、福井県プロジェクトに関しては詳しくないと言えるでしょう。これは、福井県プロジェクトだけに限った話ではないと思われま

す。先日、私がインターネットを介して県内外の人に「福井県といえば何を思い浮かべるか」という質問をしたところ、県内外ともに恐竜のイメージが強い様子が見られました。これは、県のPRは成功しているということと同時に、そればかりが突出していることも示唆していると考えられます。恐竜博物館は県立ですが、その周辺への影響を考えると、一カ所に観光客が集中することは、ほかの地域との差を生みかねません。実際に、県内の市町での観光客数の伸びには差が見られます。

これらのことから、福井県民自身が福井県のことをよく知り、福井県の各地域をそれぞれ押し出せるような事業が必要だと思います。そのために、まずは県内へのPRをすることが求められるのではないのでしょうか。

県内に向けたPRの方策に関して、考えを伺います。

南部議員 南部です。

県内の安全対策についてお伺いします。

私が小学生のころ、よく学校から不審者情報が母の携帯電話に送られてきました。大体、月に1度くらいだったと思います。そのメールを見て、誰々の家の近くだなどと母と話していました。

不審者がよく出没していた地域では街灯が少ないと思います。もちろん、大通りなどは夜でも街灯のおかげで明るく安心ですが、細い道は、人通りが少ない上に、街灯もほとんどなく、とても怖い思いをします。

小学生や中学生は、登下校のときに通る道を学校に連絡しています。人通りの少ない地域でも、せめて通学路だけは街灯をもっとつけるべきではないでしょうか。不審者が子供に声をかけたりすることは減り、安全な街になると思います。

私は、街灯をもっとつけるべきだと思いますが、安全な街にするために、どうしたらよいと思いますか、考えを伺います。

以上で、私たちの質問を終わります。

橋本議長 総務教育常任委員会委員、山本正雄君。

山本正雄総務教育常任委員会委員 総務教育常任委員会委員の山本正雄です。

塩崎議員の福井県内の進学環境の充実についての質問にお答えをいたします。

塩崎議員が言われるとおり、進学先の選択は大変大事なことだと思います。県内の大学に希望する学部がない、言われるとおりでございます。そういった理由で、毎年たくさんの学生が県外に出ていっている現状を、私も非常に残念に思っています。特に、3,000人出ていって700人ほどしか帰ってこない。毎年、若者が福井県で2,200人ずつ消えていっている。これは大きな課題でございます。



現在、県内には、五つの大学に12学部、二つの短期大学に4学科があります。県議会では、これまでも県内大学への学部の新設、あるいは、大学卒の拡大を提言しており、県も人口減少対策の一つとして、県内大学の魅力アップに取り組もうとしています。

塩崎議員から提案があった単位互換制度については、現在、県内の八つの大学等で実施されています。この制度を県外の有名大学にまで広げることができれば、県内の大学に在学しながら、

希望する県外の大学でも学ぶことができ、大変有意義な制度だと思っております。

また、県は、ことし6月にまとめました国への重要要望事項の中で、「都市の大学の定員を削減して、地方の大学の定員を増加すること」、「都市の大学による地方へのキャンパス移転や、地方の大学が定員拡大を行うことに伴い、必要となる施設や設備の導入、人員配置の増加に対する支援を行うこと」などについて記載していますので、今後、このような支援によって、県内の大学の魅力が向上し、少しでも多くの学生が自分の希望を実現しつつ県内で進学できるよう、議会としても努力をしていきたいと思っております。

私自身、元教員をしていたこともあって、このことについては大変一所懸命に取り組んでおりま

して、各大学の学長のところをお願いに行ったり、あるいは、新学部の新設等について話し合いをしているところがございます。これからもしっかりと頑張っていきたいと思っております。

なお、個人的なことでございますけれども、チームの名前が「サラダ記念日」と、非常にすばらしい名前がついていて、俵万智さんのサラダ記念日のことだと思います。私も俳句や短歌が大好きなので、いい名前をつけていただいて、ぜひ塩崎さん初めチームの皆さんも、再来年度ですか、大学受験をしっかり頑張ってもらって、希望の学部へ入られることを心から御祈念申し上げまして、答弁といたします。どうもありがとうございました。

橋本議長 厚生常任委員会副委員長、田村君。

田村厚生常任委員会副委員長 しっかりと、はっきりとした口調で御質問いただきました、藤島議員の県の花粉症対策についての御質問にお答えをいたします。

県のホームページもごらんいただいたようでありますけれども、県では、県民の皆様向けに花粉症の予防や治療に役立てていただくために、県のホームページに「花粉症について」というサイトを設けまして、花粉症の予防や治療、また、それに関連するホームページへのリンク集や県内の相談窓口を掲載しています。

そして、林野庁へのリンクもありまして、花粉の少ない森林への転換等の促進の取り組みを見ることが出来ます。これは、まさしく、藤島議員が言われるように、スギ林について、花粉の少ないスギや広葉樹林への転換を進めていくもので、大変重要な花粉症対策であると思われま

す。議員がホームページで見つけられました「ふくいの森づくり整備計画」で、花粉症対策の苗木等の植栽について掲載しています。

お尋ねの進捗状況ですが、勝山市の県有林で、スギの人工林を伐採し、広葉樹を植えることで、花粉の少ない森林への転換を進めています。早くて、ことしの秋、または来年の春か秋には植栽を始める予定であると聞いています。

私の周りにもスギ花粉アレルギーで苦しんでいる人は多いのですが、スギの花粉そのものが少しでも少なくなれば、患者さんを減らすことができるに違いないと期待をしています。

また、先ほどのリンク集の中に県衛生環境研究センターのホームページもありまして、そこでは、スギ・ヒノキ花粉の飛散の状況、また、試行的に飛散の予測を掲載しています。

このほか、県の花粉症対策については、福井県独自に取り組むことは非常に難しいので、現在のところ、特に実施していることはないようであります。

花粉症はアレルギーでありますけれども、根本的原因是、体内バランス、免疫力の低下なのかと思っております。御質問にもあったように、病院での治療の方法も大変進化をしているようでもありますので、藤島議員の花粉症がよくなるようにお祈りをいたします。

橋本議長 産業常任委員会委員長、中井君。



中井産業常任委員会委員長 加藤議員の県の観光戦略についての質問にお答えします。

県は、ことし3月に福井県観光新戦略を定めましたが、その中で、「観光で訪れたい都道府県は、県民の地元に対する愛着度(ご当地愛)が高い傾向があるので、県民が県内の観光地を訪れ、ご当地愛を高めることが重要」としています。



しかしながら、加藤議員がみずから調べてくれましたように、福井県民自身が福井県のことをよく知っていて、愛着を持っているかという、まだ十分ではない現実もあるようです。

このため、福井県観光新戦略では、県内観光地を幼稚園、小学校の遠足等を通して知ってもらうこと、イベントにおいて県内の各市町が相互に協力し、観光PR、特産品販売、ゆるキャラ等の出演をすること、地元の新聞、テレビ、ラジオ等のメディアと連携し、県民への県内の観光情報やイベントの発信を強化することなどの取り組みが考えられています。

加藤議員が言われますように、県民自身が福井県のことを知ることはとても大切で、まず、県民が県内の観光地を訪れて楽しみ、愛着を高めることにより、県民みずからがその魅力を県内外に発信することができるのだと思います。

今後さらに、県民に向けた県内のPRを行うこと、そして、その効果的な方法については、委員会としても県の考えを聞き、提言していきたいと考えています。

私は福井県が大好きです。ぜひ皆様も御自分の地域、そして福井県を愛し、どんどんPRをしていっていただきたいと思います。皆様お一人お一人のPRの力が必要ですので、どうぞ一緒にPRに頑張りましょう。

橋本議長 土木警察常任委員会委員長、畑君。

畑土木警察常任委員会委員長 南部議員の県内の安全対策についての質問にお答えをいたします。

県においても、暗くて危険な通学路の街灯をふやすことは必要だと考え、明るく安心な通学路になるよう、LED防犯灯の整備に取り組んできました。

平成23年度から平成26年度まで、市町等が行ったLED防犯灯の新設に対して支援を行い、その結果、4年間で約1,800基の防犯灯が新たに設置されました。

防犯灯の設置以外にも、子供たちを犯罪から守るための取り組みが行われており、全小学校区で危険箇所を点検する「子ども重点見守りデー」、全中学校区での下校時間巡回パトロール、弁当配達や建設業などの民間企業の車による見守り活動などにより、通学路はもとより、地域ぐるみで子供たちを見守っております。



また、県、公安委員会、県警察がことし4月に定めた「安全・安心ふくい」万全プランでは、子供が不審者から声をかけられる事件が起きた場所での集中的な見守り活動の実施、防犯知識の向上を目的とした研修会の開催、イベント会場での体験・参加型の講習会の開催などにより、子供たちを犯罪から守る対策を進めていくとされております。

皆さんが安心して通学できるようにすることは、非常に大切です。そのためには、ハード面の街灯の設置に限らず、見守り活動など、ソフト面も大変大切だと思います。人による安全向上への取り組みを行っております。

いずれにいたしましても、地域を守ることは人づくり、地域づくりのためには非常に大事でございますので、地域の人たちや企業とも協力をして、子供たちにとって安全な街になるよう、委員会としても考えていきたいと考えます。

橋本議長　ここで、休憩いたします。2時25分に再開いたします。

なお、休憩後は、羽水高校、チーム「ジュラチック」の柿本君に議長を交代します。ありがとうございました。

～ 休　憩～

柿本議長　羽水高校、チーム「ジュラチック」の柿本です。よろしくお願ひします。

休憩前に引き続き、会議を開きます。

チーム「HINO」、墨崎君、田中君、三国君、湊君、藤木君。

田中恵里惟議員　武生東高校、チーム「HINO」の田中です。

私は、福井国体に向けた、人材確保と教育についてお伺いしますのでよろしくお願ひします。

昭和43年の福井国体は、高度経済成長の流れの中で「新しい時代を開く国体」をテーマに開催され、福井県は見事に天皇杯を獲得しました。

平成30年の福井しあわせ元気国体でも、天皇杯獲得を目指して、さまざまな取り組みが進められています。その成果のあらわれが、最近の

スポーツ関係の大会における福井県民の活躍として、バドミントンの勝山高校、ホッケーの丹生高校や朝日中学校、野球の敦賀気比高校や鯖江ボーイズ、バスケットボールの北陸高校など、素晴らしい活躍がたくさんあり、素晴らしいことだと思います。このようなさまざまな競技での素晴らしい成果を、日本中にアピールしていただきたいと思ひます。

ことしの8月19日に、福井国体に向け継続的な選手育成につなげるため、県立高校の2016年度体育推薦入試を、武生高校や高志高校などで新しく実施するという報道がありました。各競技の選手育成に適した環境と、すぐれた人材のマッチングを図るという点で、必要な政策だと思います。

新しい体育推薦入試では、どのようなレベルの選手が対象となり、どのようなスケジュールで、どのような試験科目で、入試が行われるのでしょうか。また、武生東高校の国際科の推薦入試のような、従来型の学科推薦入試と、どこが違うのでしょうか。国体に向けた選手育成のための新しい



推薦入試について、考えを伺いたいと思います。

墨崎議員 墨崎です。

私は、原子力・エネルギー対策についてお伺いしますので、よろしくをお願いします。

2011年の東日本大震災による東京電力福島原子力発電所の事故によって、世界は原子力の利用について多くの教訓を学ぶことになりました。今なお残る多くの問題の解決を通して、我々はこれからも学び続けなければなりません。

エネルギー対策は、世界中、どの国でも最重要課題の一つです。3.11以降、世界の国々は、原子力発電所をエネルギー源として廃棄する方向と、安全基準を従来よりも高めつつ利用する方向とに分かれています。

我が国では、原子力規制委員会によって安全性が確認された原子力発電所については、再稼働を進めるとというのが政府の方針です。福井県では、ことし4月に、関西電力高浜発電所3・4号機について、福井地方裁判所から運転差しどめの仮処分が出されました。この件に関して、西川知事は「県としては、これまでどおり、国や事業者の対応状況等を十分確認し、安全確保を最優先に慎重に対応していく」とコメントされました。

もし、何らかの問題が発生した際には、国や電力会社だけでは対応できません。事前の準備、発生直後の対応、事後の解決に向けた対応などに対して、不安感を持つ県民も多いと思われます。原子力・エネルギーの将来展望と具体的な対策について、考えを伺います。

藤木議員 藤木です。

私は、恐竜博物館について伺いますので、よろしくをお願いします。

恐竜博物館は、20年以上にわたる福井県での恐竜研究の成果をもとにした、アカデミックかつダイナミックな博物館として、ことしの夏も多くの方が来場されています。来場者数は着実に増加し、2年連続で70万人を超え、もう少しで福井県の人口に届きそうな勢いです。展示内容のレベルの高さだけでなく、研究レベルの高さでも世界に知られるようになり、東アジア地域の恐竜学研究の拠点としても活躍されています。まさに恐竜は、福井県の新しい顔となりました。

その一方で、博物館までのアクセスの悪さを指摘する声があります。

福井市中心部から恐竜博物館までは、公共交通機関を利用すると1時間半以上かかります。また、運賃も、往復だと、博物館の入場料の1.5倍くらいになってしまいます。このアクセスの問題を解決すれば、さらに入場者数が増加するだけでなく、勝山市が進めるジオパークとしての取り組みにも大きなインパクトになると思います。

本年度の6月補正予算案に、「恐竜などの化石購入」費用として2億7,690万円が計上され、議会でも認められました。博物館そのものの魅力を高めることは必要ですが、利用者あつての博物館という視点から、アクセスの改善にも予算の活用をしてはどうでしょうか。

恐竜博物館へのアクセスの改善に関する考えを伺います。

湊議員 湊です。

私は、ライフラインの確保、特に豪雪時における交通の確保についてお伺いしますので、よろしくをお願いします。

安全で安心して暮らせる社会の構築と維持のためには、ライフラインの確保が欠かせません。災害や事故によるライフラインへの影響については、可能な限り事前の想定に応じた対応が望まれま

す。

特に本県は、冬季の豪雪時における対応が重要です。

25年ぶりの大雪となった平成23年1月31日には、積雪が239センチとなり、県内交通の大動脈である国道8号、北陸自動車道、JRが全てストップし、県民生活に大きな影響を与えました。

ことし2月9日から10日にかけても、本県が強い寒波に覆われ、越前市から滋賀県北部にかけて交通機関が麻痺しました。特に、国道8号では、約20キロにわたって大型トラックなど数百台が立ち往生し、8時間以上の大渋滞となり、その様子は全国に向けて大きく報道されました。そのニュースの中で、あるトラックの運転手は、「除雪ができないなら車が進入しないように誘導してほしい」と訴えていました。

そこで、ライフラインの確保について、特に豪雪時における交通の確保について、考えをお伺いします。

以上で、私たちの質問を終わります。ありがとうございました。

柿本議長 総務教育常任委員会委員長、松田君。

松田総務教育常任委員会委員長 田中議員の新しい推薦入試についての質問にお答えをいたします。



新しい体育推薦入試は、全ての中学生が参加できるというのではなく、ジュニアアスリート強化選手に指定されました304人の中学3年生が対象になっております。

試験は、毎年1月下旬に行われる、体育・芸術推薦入試に合わせて実施されまして、従来の推薦入試の面接と作文のほかに、国語、数学、英語の学科試験が加えられます。試験日程や募集定員など、詳細については、10月下旬の教育委員会で決定、公表される予定であります。

従来型の学科推薦入試及び体育・芸術推薦入試につきましては、この新しい体育推薦入試とは別に、従来と同様の方法で実施される予定でございます。

今の中学3年生は、2018年の福井国体少年の部で主力となる世代であり、それぞれ希望の高校に入学し、国体で活躍できますよう、私たちも全力で応援をしてみたいと思っております。

柿本議長 厚生常任委員会委員、長田君。

長田厚生常任委員会委員 本日、傍聴の方々も大変多く、少々緊張しております、厚生常任委員会委員の長田です。

墨崎議員の原子力・エネルギー対策についての質問にお答えをいたします。

非常に繊細な事柄に、大事で的確な御質問をまことにありがとうございます。

2030年、電源構成比率を検討していた政府は、本年6月、原子力の比率を20から22%、再生可能エネルギーを22から24%などとする案を決めました。しかしながら、どうやってこの比率にしたのか、どういう方法で実現するのか、これは明らかにされておられません。

このような中、県議会では、先月、資源エネルギー庁から「エネルギー政策」について説明を受け、見解と対応をただしたところであります。これから引き続き、国に対し、原子力を含めたエネルギー全体の考え方について、国民の理解を得るため、わかりやすく責任ある説明をするようにしっかり求めていく所存であります。



持論ですが、つい先日も、戦後70年の節目に、全国各地で、祖国のために散華なされた英霊を祭り、弔う行事がとり行われたところであります。

戦争は絶対にしてはなりません。また、戦争を仕かけてこれられないようにもしていかなばならないと思います。なぜあのとき日本が開戦することになったのかを振り返るに、資源や原子力を含め、エネルギーに関しての事柄はとても重要で、すなわち、防衛であるとも言えると思

います。

墨崎議員や本日御参画の皆さんとともに、これからもしっかりと議論し、どうあるべきか、よりよいあり方について、前向きに考えていく気風がとても大切であると考えます。

また、私たちの日常の生活に欠かせない自動車の燃料、エネルギーに関してであります。1997年、ハイブリットカー・プリウスが発売された当時、国内販売台数の主流を占める車になるとは誰も予想をしておりませんでした。そして、昨年12月にトヨタが燃料電池車M I R A I を発売いたしました。1回当たりの水素充填は3分、走行可能距離は約650キロだそうです。残念ながら、福井県内には水素を充填できるステーションはまだありませんが、将来的なエネルギー需給を見通し、環境に優しい水素自動車の普及についても努力していきたいと思っております。

柿本議長 産業常任委員会委員、野田君。

野田産業常任委員会委員 産業常任委員会の野田です。

藤木議員の恐竜博物館へのアクセス改善についての御質問にお答えいたします。

先ほど羽水高校の出口議員、それから北陸高校の石田議員から、それぞれ交通アクセスについての御質問をいただきました。

藤木議員には、メジャーな観光資源であると評価いただき、感謝しております。現に多くの方々の関心と、年間70万人を超える方々が訪れております、この恐竜博物館に絞っての質問でございますが、現在、福井市中心部から恐竜博物館への公共交通でのアクセス方法としては、えちぜん鉄道で勝山駅まで行き、バスに乗りかえる方法のみで、多くはマイカーでの来訪であります。

先日も、私は恐竜博物館へ行ったのでありますが、5,000人近くが来訪されておりました。駐車場が2層ありますけれども、そこがほぼ満杯でしたが、県外者が9割という現状があります。



さて、そんな中ではありますが、えちぜん鉄道では、土曜・日曜には、勝山駅まで、通常の列車よりは10分早く到着するよう、「きょうりゅう電車」の運行や、来館者の負担を少しでも軽くするために、往復乗車券にバス、特別展入場券がセットとなったお得な乗車券の販売なども行ってあります。

今後、3年後には福井国体の開催、8年以内の北陸新幹線敦賀開業などの局面を迎えるに当たって、鉄道や航空機で来県する人たちも含め、より多くの人に利用してもらうためにも交通アクセスの改善は極めて重要であります。今後、いろいろ研究してまいります。よろしくお願いいたします。

柿本議長 土木警察常任委員会副委員長、田中敏幸君。

田中敏幸土木警察常任委員会副委員長 湊議員の豪雪時の交通の確保についての質問にお答えいたします。



本県と関西・中京を結ぶ大動脈である国道8号や北陸自動車道が大雪のために長時間通行どめになることは、県民生活に大きな影響があります。

平成23年1月の大雪以来、除雪機械の増設など体制は強化されているものの、本年2月に再び同じことが起きたことは、自然の脅威を改めて感じさせられたところであります。

このようなことから、2月17日に、議長が副知事とともに、北陸自動車道を管理するNEX

CO中日本に対し、問題の検証とロードヒーティング等の対策を要請しました。

また、国道8号についても、道路の拡幅やバイパスの整備などを含めた抜本的な対策が必要だと考えております。

また、これらの幹線道路のみならず、生活道路においても、降雪による県民生活に影響が生じないように、除雪機械や人員確保、道路融雪装置の整備など、除雪に対する備えをしっかりと行っていきたいと考えております。特に、雪が多い場合には、全面的な不能がないように、機動的に対応してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

柿本議長 ここで、北陸高校、チーム「F2-12」の織田君に議長を交代します。ありがとうございました。

織田議長 北陸高校、チーム「F2-12」の織田です。よろしくお願いいたします。
チーム「勝山左義長クラブ」、奥田君、竹島君、田鳥君、高柳君、坂本君。

竹島議員 勝山高等学校、チーム「勝山左義長クラブ」の竹島です。

私は、人口減少対策のうち、子育て支援・結婚対策について質問しますので、よろしくお願いいたします。

福井県ホームページによりますと、平成27年7月1日現在の福井県の総人口は78万5,695人、また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によりますと、平成22年から52年の30年間の間に、総人口は17.3万人減少し、90歳以上の高齢者は3倍になると予想されています。

若い世代の人口減少を防ぐために、県ではさまざまな対策がとられています。子育て支援の一つである「ふくい3人っ子応援プロジェクト」では、3人以上の子供がいる家庭を経済的に支援しています。また、結婚対策として、「ふくい婚活カフェ」が利用され、若い世代の出会い・交流をサポートしています。さらに、就職や進学を機に福井県に定住してもらう取り組みもなされています。

また、福井県は、待機児童数がゼロであり、学力・体力ともに全国トップクラス。子育てをする環境としては、とても魅力のある県です。

このような情報は、福井県民にはもちろんですが、県外の方に知ってもらうことが重要ではないでしょうか。県外の方に福井県の魅力を知っていただくことで、県外からの移住者の増加を図ることができると思います。

そこで県では、ホームページ以外で、県外の方に、福井県が子育てにとってとてもよい環境

であることをどのようにPRしているのでしょうか、また、その効果はどのように上がってきているのでしょうか、伺います。

さらに、結婚対策は、出会いをサポートするだけの施策となっているようです。福井県で結婚し、定住する意思のある方に対する移住費用や住宅費の一部補助など、経済的支援を行う制度はつくらないのでしょうか。考えを伺います。



奥田議員 奥田です。

私は、若年人口の減少対策について質問しますので、よろしくお願いします。

県のホームページによりますと、月別の人口増減は、3月、4月の人口減少が目立ちます。これは、県外への進学、就職のためと考えられますが、約5,000人もの人々が2カ月間に県外へ転出しています。

一方、やはり同じ理由と考えられますが、県外から福井県に転入してくる人の数は、3月、4月合わせて毎年約4,000人です。つまり、毎年、約1,000人も人口が減少することになります。

進学、就職のために県外へ出ていく人の多くは若者です。福井県の高齢化率は約28%と、全国平均よりも約2%高く、決して低くはない数字です。このように高齢化も進む状況の中で、若者の減少は食いとめなければなりません。

そのため県は、大学生の就職活動を応援しながら、県内企業への就職者を増加させるためのインターンシップや、若者を対象に福井県での子育てのしやすさ、暮らしやすさをアピールするための座談会、また、2017年度から福井県立大学での地域推薦枠を101名にふやすなど、さまざまな対策を行っています。

私は、学生が県外へ進学する理由の一つとして、福井県内の大学の学部の少なさが影響していると考えます。しかし、今から不足している学部を幾つも補うのは時間もかかり、費用も多く必要とします。

そこで、福井県の観光資源である恐竜を活用し、福井県でしか体験できないような恐竜にちなんだ講義や体験を織り込んだ恐竜学部を新設してはどうでしょうか。この学部は福井県にしかないので、各地から恐竜について学びたい若者や研究者を集めることが可能だと思います。

このことを含め、若年人口減少への対策について、お考えをお聞きます。

坂本議員 坂本です。

私は、福井県全体での観光客増加に向けた取り組みについて質問しますので、よろしくお願ひします。

北陸新幹線は、今年度3月に金沢まで開業しました。金沢 敦賀間の開業は平成34年度末に予定されています。東京から乗りかえなしで福井まで来られるということについては、大きな効果があると予想しています。その上では、福井県に来ていただいた観光客に何を楽しんでいただくかが大切だと考えます。

観光営業部の資料によると、昨年度の福井県の観光客の実人数は約1,130万人でした。このうち県外客は約470万人で、前年比103%となっています。北陸新幹線の金沢開業によって、この数字はどのように変化しているのでしょうか。年度途中ではありますが、まず、現在の状況について伺います。

また、県内に来られる方々は、どのような方法で福井県の観光地について知っているのでしょうか。県では、首都圏や金沢駅、小松空港等で観光キャンペーンを実施したり、観光マップを配布しておられますが、そのような活動は、どの程度効果を上げているとお考えでしょうか。お教えてください。

さらに、今後の敦賀までの延伸を考えると、県内の観光地、見どころの質的な向上にも努める必要があります。

勝山市にある恐竜博物館は、年間70万人を超える方々が来館する施設となりました。昨年度の数字で見ると、このうち81%は県外からの来館者です。県外客の多さでは、東尋坊に次ぐ規模です。ことしも恐竜博物館の入場者は堅調なようですが、長期的に考えたとき、少数の観光資源に頼ることは不安です。福井県には、ほかにも朝倉氏遺跡や永平寺、芦原温泉、三方五湖など、さまざまな見どころがあります。

北陸新幹線の延伸に向けて、どのように観光資源の多面化、多軸化を図るのか、お考えをお聞きます。

田鳥議員 田鳥です。

私は、山林の環境保全について質問しますので、よろしくお願ひします。

私たちの地元の勝山市は周囲を山に囲まれ、多くのスギが植林されています。

県では、平成21年に福井県森づくり条例を施行し、また、昨年度はふくい森林・林業基本計画を策定し、林業の持続性のある発展と森林環境の整備に努めてこられました。特に県産材を使用した住宅建築に一定の補助を出すなど、県産材の消費拡大には一定の効果을上げていると思います。学校でも、奥越明成高校の教室の木質化工事や奥越特別支援学校の校舎建設では、多くの木材が使用され、非常に温かみのあるものとなっています。

福井県全体では、27万ヘクタールの民有林があります。民有林のうち43%は人工林であり、その87%はスギ林です。しかし、福井県森づくり条例の前文が指摘するように、一部のスギ林では十分な手入れが行き届かず、森林の多面的機能の持続的な発揮が危ぶまれる状況になっています。

放置された針葉樹林は暗くなり、地表を覆う草が生えず、表土の保水力も低下します。土砂災害を防ぐためにも人工林の整備は必要です。

そこで、私は、山林の保護と機能保持のために、県で既に取り組んでおられる人工林の針広混交

林化の促進を提案します。

広葉樹は多くの実をつけ、積もった落ち葉は土の生物を育むので、豊かな生態系を維持する源となります。また、十分には解明されていませんが、広葉樹林から出る養分はプランクトンの生育に有効であるという説もあり、漁業にもよい効果をもたらすものと考えます。

環境保持を主目的とした針広混交林化の促進については、産業として木材を生産する林業の振興とバランスをとることが難しい政策ですが、どのようにバランスをとって進めていくつもりかお伺いします。

以上で、私たちの質問を終わります。

織田議長 総務教育常任委員会委員、力野君。

力野総務教育常任委員会委員 奥田議員の若年人口の減少対策についての質問にお答えいたします。



県の調査においても、県外に進学する理由として「県内大学に志望学部がない」などとの意見がございます。また、県議会の6月定例会においては、学部の新設や定員枠の増大などの提案もございました。

福井大学が平成28年4月の国際地域学部の開講に向けて準備を進めているほか、この春、県の実情もあって県内大学は、定員から100名以上の入学者を確保しております。

一方、学部の新設や定員増については、教員の確保や、学部によっては定員割れなどの課題もあり、御指摘のように多額の費用もかかるものと考えられます。

御提案のあった恐竜学部に関しては、県立大学では平成25年4月に恐竜学研究所を設置しており、県立恐竜博物館との共同研究等を行いながら、恐竜学や地球生命史学などの一般教育科目の中で、学生に恐竜の魅力伝えております。

恐竜学部の新設については、まだ多くの検討課題があると思いますが、恐竜は本県のトップブランドであり、そのお膝元である勝山高校からの御提案でございます。議会としても、恐竜などに特化した魅力ある学部の新設等についても議論を深めていきたいと思っております。

また、若年人口の減少対策については、結婚・子育て支援や今ほどの県内進学促進のほか、県外進学者の県内就職や県外在職者のU・Iターン、さらには、県外企業や政府機関の誘致等による雇用の場の確保など、それぞれの面から、他県よりもすぐれた施策を一つでも多く打ち出していくことが重要と考えられます。

若年人口の減少対策という質問でございます。今後も若い人たちの御意見を十分聞きながら、議会や委員会での議論を活発にしていきたいと思っております。ありがとうございます。

織田議長 厚生常任委員会委員、西本恵一君。

西本恵一厚生常任委員会委員 厚生常任委員会の西本恵一でございます。

今、竹島議員から質問がありました人口減少対策のうち、子育て支援・結婚対策についての質問にお答えをいたします。

本県では、今ほど御質問で御指摘がありましたように、平成27年4月から「新ふくい3人っ子応援プロジェクト」により、3人以上の子供を持つ世帯に対する保育料の無料化や一時預かりの支援などを強化するなど、子育てに優しい環境づくりに努めております。

その強みを生かして、人口減少対策として県外から多くのU・Iターン者を呼び込むためには、御指摘のとおり、県外在住者に対し、子育て環境を含む福井県のよさをPRすることが必要と考えております。



そこで、県は、情報発信のため、平成27年6月からふるさと福井移住定住促進機構を設置し、アオッサと東京のふるさと回帰センター内に相談拠点を置いて、仕事や子育て、住まい等も含めたワンストップ支援を実施しております。

その設置効果については、6月の1カ月間のU・Iターンに関する相談件数が、前年同期比で3倍を超える454件となっております。

また、今後、都市と福井県の生活コストを比較して見える化した、人生トータル設計書を作

成して、それをUターンに結びつける考えであります。

次に、結婚対策については、結婚される方に限りませんが、新たに定住される方に対して、平成27年度から、U・Iターン者に対する空き家購入の補助制度やリフォームに対する補助制度が多くの市町で実施をされております。

県議会としても、御提案のとおり、本県のすぐれた子育て環境などを含めて、県外にしっかりとPRする必要があると考えており、効果的なPR方法については幅広く議論していきたいと考えております。

最後でございますが、皆さんにお願いがあります。

今ほど、学力・体力日本一の福井県というお話がありましたが、子供の幸福度も日本一であるとなっております。皆さんも、進学では県外に出られることもあるかと思いますが、福井県内には魅力的な企業もたくさんあります。また、子育て環境も日本一、そういうふうにご自負しておりますので、卒業されましたら、ぜひともふるさと福井に戻ってきていただいて、「ふくい創生」に寄与していただけると幸いです。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

織田議長 産業常任委員会副委員長、斉藤君。

斉藤産業常任委員会副委員長 坂本議員から福井県全体での観光客増加に向けた取り組みについて御質問いただきました。

主に3点ございまして、1つは、北陸新幹線の金沢開業に伴う福井県の観光客数ということでございます。

まず、北陸新幹線の金沢開業による県内の影響については、県内の主要観光地は観光客が増加し、特に、恐竜博物館のゴールデンウィーク中の入館者数は7万106人と前年度比12.2%増で過去最高と

なっておりまして、県内宿泊客数も前年同期比で約40%増加するなど、その効果はあらわれていると考えております。

それから、首都圏や金沢駅等における観光キャンペーンや観光マップ等は、どの程度効果があるのかということでございます。

これらについても、関東からの観光客入り込み数は、平成25年は30万人と過去最高でございまして、これは、北陸新幹線金沢開業に向けての首都圏や北陸新幹線沿線地域での観光プロモーション活動の強化によってもたらされたものと思っております。平成26年度は32万人であって、県はさらに入り込み数の確保を目標としているところでございます。

それから、3点目は、北陸新幹線の延伸に向けて、少数の観光資源だけに頼るのではなくて、多面化、多軸化が必要なのではないかという御提言でございまして。

これについては、確かに少数の観光資源だけに頼るということではありませんけれども、まず一つは、昔から福井県の代名詞となっている永平寺や東尋坊、恐竜など、核となる部分の観光地をさらに磨きを上げて、豊富な内容にしていくことが重要だろうと思います。それに各観光地をつなぐ新しい観光ルートの開発、そのためには旅行事業者等に対して、観光素材の紹介だけではなくて、この地域に伝わる秘話や素材の隠れた魅力など、福井ならではのストーリーを提案していきます。例えば、福井戦国ゆかりの地をめぐるコースなどを掲載したガイドブックを売り込むといった取り組みも進めていきたいと思っております。

県議会としましても、今年度、観光振興議員連盟を設立し、首都圏や福井駅における観光プロモーションに参加しておりますので、今回の皆様方からの御提案を受けて、県とともに県内観光地や観光素材の魅力向上、PRに努めさせていただきたいと思っております。

織田議長 土木警察常任委員会副委員長、田中敏幸君。

田中敏幸土木警察常任委員会副委員長 田鳥議員の山林の環境保全についての質問にお答えいたします。

平成27年3月に策定した「ふくい森林・林業基本計画」では、山際においてコミュニティ林業の拡大等により間伐を進め、低コスト化により県産材の生産量を倍増するとともに、住宅、オフィス、まちづくりなどでの県産材の活用支援を強化し、県産材の需要を高めていくことといたしております。

一方、御提案の針葉樹、広葉樹混交林化については、条件不利な森林が多い奥山において、水資源涵養、土砂災害防止などの機能を持続的に発揮させるために導入し、具体的には、列状間伐等により、間伐後の土地に広葉樹の侵入を促す形で実現していく計画であります。

このため、山林の中で、基本的に県産材活用を推進する地域と、針葉樹、広葉樹混交林化を進める地域は、おのずと区分されていると思われませんが、それらの進め方のバランスについては、県議会において、まだ具体的に議論はしていない状況です。

これまで分収造林事業における県による債務処理のあり方や、大野市で稼働予定の木質バイオマス発電所の燃料となる間伐材の確保など、林業についてはさまざまな課題について議論してまいりました。

県議会といたしましても、次の世代を担う高校生の皆さんや、これから生まれてくる子供たちのために、御提案のとおり、ふくいの山、森林を守れるように、県と議論を交わしてまいりたいと思っております。

織田議長　ここで、藤島高校、チーム「サラダ記念日」の前田君に議長を交代します。ありがとうございました。

前田議長　藤島高校、チーム「サラダ記念日」の前田です。よろしくお願いします。
チーム「けんとかん」、萩原君、橋本君。

萩原議員　福井商業高校、チーム「けんとかん」の萩原です。

私は、福井県に人を呼び寄せる方法について質問をしますので、よろしくお願いします。

福井県では現在、進学や就職などで県外に移住する人が多く、観光客も他県と比べると少ないです。そのため人を呼び寄せるために、さまざまな方法を工夫する必要があります。

福井県では現在、観光に力を入れています。

例えば、福井駅前で2014年度から広場整備に着手し、恐竜モニュメントは、ことしの3月に完成、また、福井駅舎恐竜ラッピングや恐竜トリックアートなども完成しています。しかし、平成26年度の福井県当初予算及び補正予算によると、これらの制作は、総額約1億2,000万円もの費用がかかっています。

確かに福井県では、昭和57年に勝山市で恐竜の化石が初めて見つかったから、今では日本の約80%の恐竜化石が発掘されているほど福井県の恐竜の歴史はすばらしく、もっと宣伝すべきだと思います。しかし、このような莫大な費用をかけて、それに値する利益が出るという試算などはあったのでしょうか。

また、恐竜ラッピングの設置期間は、平成26年度から平成30年度までの約5年間だけです。北陸新幹線金沢 - 敦賀間の開業予定は平成34年度末です。なぜこのときまで設置しないのでしょうか。

また、今のところ観光客を呼び寄せるために恐竜を大きく宣伝していますが、恐竜以外に県内各地域において、観光スポットづくりは行っているのでしょうか。

駅前の恐竜王国福井のPR効果と今後の方針及び恐竜以外の観光スポットづくりについて、考えを伺います。

橋本議員　橋本です。

私は、観光に関する具体的な方策について質問しますので、よろしくお願いします。

平成34年度末に北陸新幹線金沢 - 敦賀間が開業予定となっています。これにより他県からの観光客の増加が見込まれます。観光客が、より福井県の魅力を知り、リピーターとして再度来県したり、継続して福井県の商品を購入するようになると、経済効果が高まります。

私の家はインターチェンジに近い場所にあります。近所にソースカツ丼のお店があり、そのお店の駐車場は、休日になると県外ナンバーの車で埋め尽くされます。私がふだん、普通に食べているものが、県外の人にとって魅力的なんだなあと思います。

福井県の食べ物は、今、挙げたソースカツ丼のほか、越前ガニ、おろしそばなどがあります。それらは比較的知名度が高いです。そのほかにもボルガライスやトンちゃんなどのB級グルメもあり



ます。

これらを売り込むために、福井県のグルメを駅弁にして、それらをフードコート形式で売り出す常設展示場を駅に開設することはできないでしょうか。

駅弁なら帰りの電車などで食べることができ、何より手軽に福井県の食べ物について知ることができます。福井県の魅力を伝える駅弁を県が企画し、福井駅構内にある駅弁屋さんで販売します。県が手がけているポストコシヒカリを使えば、福井県のお米の宣伝にもなります。

また、多くの人に福井県にしかないおいしい食べ物を知ってもらうことで、県外から福井県に住みたいという人が出てくるはずで、衣食住は人の生活において重要です。福井県の豊かな自然環境や、季節を通じてのおいしい食べ物は十分魅力的であると思います。

最近のトレンドとして、都会から田舎に引っ越すという方もふえているようで、今こそ福井県の人口増加の大きなチャンスではないでしょうか。

駅弁を活用した観光誘客及び人口減少対策について、考えを伺います。

以上で、私たちの質問を終わります。

前田議長 総務教育常任委員会委員長、松田君。

松田総務教育常任委員会委員長 総務教育常任委員会の松田でございます。

萩原議員の福井県に人を呼び寄せる方法に関する3点の質問についてお答えをいたします。

萩原議員が御指摘のように、人口減少、地方創生、地方の活性化は大変重要な問題でございます。福井県といたしましても、重点課題として取り組んでいるところでございます。

まず、駅前の恐竜モニュメントなどの費用に対するPR効果について申し上げます。

県では、事業の計画に当たりましては、その費用対効果を常に留意して立案をしております。その結果、当該事業については、3月の設置から6月末までの間に、少なくとも約2万人の方が見物に訪れました。また、全国や海外のメディアでも大きく取り上げられるなど、皆さんもテレビで見たことがあるかと思いますが、設置により、かなりの効果を上げていると思います。

次に、壁に書かれている恐竜ラッピングの設置期間についてお答えをいたします。

設置期間は、平成30年度までの5年間としています。

その主な理由は、耐用年数が5年程度であること、また、平成30年度に福井しあわせ元気国体大会が開催されること、これらを総合的に考慮し、今のところ、5年間としております。

最後に、3点目の恐竜以外の観光スポットをつくらないのかという質問についてお答えをいたします。

福井県は、ことし3月に、福井県の観光を考える上での指針となる福井県観光新戦略を策定いたしました。その中で100万人以上の集客力のある観光地、観光スポットを創出するという目標を掲げております。

恐竜以外にも例えば、東尋坊、三国港周辺や、赤レンガ倉庫のある敦賀市金ヶ崎など、合計15カ所を選定し、重点的に整備するように計画し、既に実行に移しているところであります。

前田議長 産業常任委員会委員長、中井君。

中井産業常任委員会委員長 橋本議員の観光に関する具体的な方策についての質問にお答えします。

福井県には、議員が言われるように、越前ガニやおろしそばなどのおいしい食べ物やボルガライスなどのB級グルメがあります。

県は、首都圏の有名百貨店や一流ホテルにおいて、県産食材を使う福井フェアの開催や若狭の食ブランドとして、「若狭路ご膳」の普及、PRを進めるなどの事業を積極的に実施しています。

また、福井県観光新戦略の中で、福井県の食や食文化の魅力を全国、そして、世界に広めていくことを計画しており、その一環として、ことし10月に開催されるミラノ国際博覧会に「禅(ZEN)と精進料理の福井」をテーマとして出展します。

駅弁については、福井駅の「越前かにめし」、敦賀駅の「敦賀鯛の舞」のほか、近年、空弁として有名な「焼き鯖寿司」など、多くの人気商品があります。

なお、「焼き鯖寿司」については、空弁ランキング5年連続1位の「焼き鯖寿司」が、ことし6月から福井駅構内のショッピングセンターで販売されています。

駅弁は、百貨店が全国の駅弁を集めたフェアを開催するなど、多くの方の関心を集める分野です。今回の御提案を参考に、若い人も食べたくなるような、新たな駅弁の開発など、駅弁を活用した福井県の食のPRや販売に取り組み、観光誘客や福井県の人口をふやすぐらいの意気込みで、やれることは失敗を恐れずにやっていきたいと考えております。ぜひ皆様の若い発想、新たなアイデアを、どんどん御提案くださると、とてもうれしく思います。皆様の新しいアイデアで、どんどん福井県を開拓していただきたいと思います。願っております。

前田議長 以上をもって、議事全部を終了いたしました。
以上で、平成27年度ふくい高校生県議会を閉会いたします。
ありがとうございました。

ふくい高校生県議会 閉会

小寺事務局長 高校生議員の皆さん、大変お疲れさまでございました。
ここで、大久保福井県議会副議長より、本日の総評を申し上げます。

大久保副議長 総評を申し上げます。

大変お疲れさまでございました。多分、緊張されているのだろうという思いがひしひしと伝わってまいりました。

皆さん方から盛りだくさんの質問がございました。特に重複している点、幾つかございましたけれども、それは、とりもなおさず今、福井県が抱えている人口減少の問題、観光の問題、そして地域創生、こういったところに集約したのだろうと思います。これは恐らく、我々も今、直面をしている大きなテーマであり、大きな問題であります。

特に人口減少の問題は、自然減、社会減の二つに分けて考えていかなければならないと思っております。これは、予算を幾ら使ってもできる問題ではないのであります。皆さん方が、考えつく全



てを着手して、それでも何年もかかるだろうと理解をいたしております。ただ、手をこまねいていたら、みんなでだんだん沈没するだけに終わってしまいます。このことは皆さんとともに、我々もこれを自分のこととして教示をしていきたいと思っています。

そして、この場で一つだけ皆さん方に申し上げておきます。

普通、皆さん方が夜中に寝ていても、救急業務があり、警察業務があり、消防業務が行われています。朝起きれば、水道の水が出ます。食事をするのも、ちゃんとお母さんが用意してくれています。車に乗って学校や会社へ行くにも、ちゃんと道路は整備をされています。皆さんの全ての生活は、政治の中にある、このことをよく御認識いただきたい。

そして、最後に、ここにお集まりの皆さん、氏名標ができていますので、近い将来、その氏名標が使えるように、また戻ってきてください。

本日の総評といたします。

御苦労さまでした。

小寺事務局長　これをもちまして、ふくい高校生県議会を終了いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

意見交換会

本会議終了後、参加高校生と県議会議員との意見交換会を開催しました。

大会議室

《参加議員》

山本文雄、石川与三吉、松井拓夫、佐藤正雄、糺谷好晃、大森哲男、鈴木宏紀、井ノ部航太

《参加高校生》

藤島高校...加藤風花、塩崎早織、藤島卯雪、前田さつき、南部藍里

勝山高校...奥田このか、竹島萌乃、田鳥菜々子、高柳遼、坂本翠

北陸高校...石田将都、木下賢将、織田菜々美、大良詩織

【高校生からの感想】

自分の意見を説明するのに、主観だけではなく、客観的なデータを用いて話さなくてはならず、とても大変だと思った。しかし、調べていると、自分が感じていたことなどが実際に数字として表れていたりして、現実としてそのように動いているという実感がわき、楽しかった。次の機会があったら、また参加したい。

議長役を務めたが、議長席から見る景色は違った感じがした。議会の進行をするにあたり、このように議会が動いていくということがよくわかり、政治にかかわった気がしてうれしく思った。今回を機にまた政治にかかわろうと思ったので、傍聴に来たいと思った。

行政を遠いものだと感じていたが、きょう体験したことで、より身近なものに感じた。また、自分の身近なところで行政が役立っている、副議長が言われたように、私たちの生活は政治でできているということが本当に身に染みて感じた。



今まで行政とか国会、県議会などというものを教科書でしか知らなかったが、今回、その場所に来て肌で感じてみて、習った事とはまた少し違うと思った。大人になってからも、選挙権を持ってからも、きちんと考えながら生きていきたいと思った。

今まで、政治はすごく遠いもののように感じていたが、(選挙権が)18歳に引き下げられてからすごく身近になったので、きょうは本当にためになった。最後の副議長の話が特に感銘を受けた。政治参加に関心が湧いてきたので、議員にもなろうかと考えた。

ふだん、ニュースなどを見て感じていることを、ほかの高校生のみんなも大体似たようなことを思っていると思った。いつもニュースなどを見て、県政に対してもっとこうした

らしいのになど思っているが、思うだけにとどまらず、これからは自分にもできることはないかを考えて行動したいと思った。

以前から政治に少し興味があったので、今回参加した。今回、県議会の様子を見せていただいたことで、ざっとしか知らなかった政治の成り立ちを知ることができてよかった。福井県のブランドである恐竜は勝山市が主であるが、勝山市の道路は余り発達していないところもあるので、今後どうなっていくのか、注目して見ていきたいと思った。

政治というのは、かたくて難しいというイメージだったが、今回参加したことで、すごく面白いものというイメージに変わった。ふだん生活しているうえでいろいろと思っていることを、この機会に議員の皆さんに聞いてもらうという貴重な経験をするのができてうれしかった。



教科書では国会のことしか学ばないので、県議会のことを生で見ることができたのはとても貴重な体験だった。

質問の原稿をつくるために県のホームページを調べたが、県がいろいろな対策をしていることを今まで知らないで生活してきたので、これからは県のホームページものぞいて、いろいろと勉強していきたいと思った。

議長役だったが、あのような立派な机、椅子に座ることができて、とてもうれしかった。歴代の議長の写真を見て、同じ椅子に座れたと思うと、とても光栄だった。

初めて議会に参加し、雰囲気や進行などがよくわかって、いい経験になった。

ほかの学校の人たちの質問や、それに対する答えを聞いて、福井県の今の状況などがさらによくわかった。

【議員からの感想】

大森議員 選挙権の年齢が18歳に引き下げられることが決まり、これを機に、県議会としても何かやらなくてはならないと思い実施した。学校が忙しいこともよくわかっているので、本当に出てきてくれるのか不安もあったが、皆さんの感想を聞いて、実施して良かったと思った。本日、9月定例会で、どういことをテーマに代表質問をつくらうかと考えていたのだが、皆さん方が質問された中に、まさに、質問しようとしていたことも出ていた。ぜひ、理事者と一緒に課題に取り組んでいきたい。

佐藤議員 大森議員は自民党の県議会議員、私は共産党の県議会議員である。皆さんの

中にもいろいろな個性があるのと同様に、県議会でもいろいろな個性がぶつかり合って、いい政治にしていきたいと頑張っている。

県議会に届けば全部実現するわけではないけれども、いい機会なので、ぜひ、これからも、いろいろな気持ちや身近な要望などを、率直に、県議会のホームページを通じてメールを送ってもらえば、県議会議員にも届くので、また、交流をしていけたらありがたいと思っている。ぜひ、これからも、いろいろな形で勉強していき、いい日本といい福井県をつくるために頑張っていたきたいと思う。

石川議員 皆さん方の質問をしっかりと聞かせてもらった。皆さんが考えていることは、私たちと何も変わっていない。福井県を何とかしていい方向にもっていきたいという気持ちが聞こえてきた。我々も、日夜、福井県がよくなるようにと思いながら、一所懸命、きょうまでやってきたが、皆さんのきょうの質問を聞かせてもらい、我々も、もっとしっかりしないといけないと気持ちを新たにしました。



松井議員 皆さんが、きょう、あの場所で、一議員になって質問をしたことは、記念になると思うし、また、皆さんが今後もやりたいと言っていたので、我々県議会としても、「ふくい高校生県議会」を開催できて、本当に良かったと思う。皆さんも、県議会を身近に感じるようになったのではないかと思う。我々は別に偉い者ではないので、何かあったら、どのようなことでも言っていただきたい。きょうも聞いていて、恐竜とか、いろいろな論点があったが、福井県の名前が全国に知れ渡るよう、まずは、皆さんの住んでいるところは本当に住みやすく、いいところだということをもっと自慢に思って、そして全国に発信できるように、皆さん方も一緒に頑張ろう。

糺谷議員 皆さんの感想を聞いて共通していたことは、政治を身近に感じた、行政のあり方をしっかりと学んでもらったということで、大変うれしく思う。民主主義では、どんな人でも1票しかない。私は、ある意味では、選挙権が18歳に引き下げられたことを少し心配していたのだが、少なくともきょう参加した皆さん方の話を聞いた感想としては、これで日本の将来も大丈夫だと思った。皆さんの周囲にはまだいろいろな人がいるので、どうか一人一人、しっかりと、マスコミ等の意見もしっかりと自分でそしゃくしながら歩んでほしい。期待する。

鈴木議員 皆さんのきょうの質問の中にあつた、恐竜博物館をどうやって生かしていくかについてであるが、戦略としては、何とか1点突破で福井県の知名度を上げて、恐竜を生かしてやっていこうということである。そのあと、どうやって全面展開するか、この施策が福井県はまだ欠けているのだが、きょう、皆さんの意見を聞いて、同じことを感じて

いるという思いになった。

議長席に座った方が何人かいたが、私も9年間県議会議員をやっているけれども、いまだにあの席には登っていない。何とか研鑽を重ねて、あの席に登れるように頑張ろうと思うので、今後ともよろしく願います。

井ノ部議員 一所懸命に調べて質問しているのが本当によく伝わってきた。私も新人なので、皆さんの姿勢に学びたいと思っているが、このように県議会では、質問する側も答えていただく側も、本当に真剣勝負で、一所懸命にやっているということ、ぜひ知ってほしいと思う。

二つ目は、皆さん案外、楽しかったとか、きょうの議会で政治を知ることができたということ言われていたが、ぜひ、同級生や家族、友達にも、そういう感想を伝えてほしいと思う。それから、議員になろうという決意を言われた方がいるけれども、私は41歳なので、早めに出てきてもらえれば、一緒にできるので、どうか頑張って、一緒に福井県を良くしていこう。

山本文雄議員 政治の世界というのは、昔から男社会の世界であった。最近は、女性の議員も増えてきている時代になったが、きょう、皆さん方が参加していただいた中で、余りにも女性の方が多いのにびっくりした。これは女性の方々が政治に関心を持っているということと、女性のきめ細かな考えというものが出てきたのではないかと、あらためて不思議な思いになった。

また、皆さん方のきょうの質問をいろいろと拝聴すると、先ほどもほかの議員が言われたように、現在の社会の中で感じていることは、どなたも考えていることは同じだと感じた。人口減少社会にしても、福井県の観光にしても、経済的な問題でも、身近な問題が多々出てきたが、これは、一般の皆さん方が考えていることがこういうことなのだとこのことを感じたので、それをさらに詰めて、議会の中でその結論を見出していくということをしていかなければならないと感じた。これはお礼を申し上げたいと思う。



それから、県庁の中には、行政と県議会という政治があって、おのずから役割が違う。福井駅の前に恐竜のモニュメントがあるが、これらは、学術的な考えや、また、それを福井県の顔として広く全国にPRして、観光に結びつけていこうという考えなど、いろいろな考え方があるけれども、まずは福井県の恐竜をPRしなければならないということで、福井駅の前にモニュメントをつくったのである。答弁の中にもあったように、全国的にもかなり有名になり、効果があったという思いがしている。そういうこ

とも含めて、県議会は、主に、皆さん方がきょう質問されたような戦略的な問題 人口減少社会をどうするか、あるいは、福井県をPRするにはどうするかなどを、それぞれの議員が意見を言う。それに対して行政は予算があって、予算の範囲内で、何をどうするかという先陣を決めてやる。学校の問題もあるし、あるいは福祉保健の問題、高齢化対応の

問題、3年後の福井国体の問題もある。そういう面に予算を優先的に使うとなると、いいことであっても、必ずしもそれを予算化して実現することができない場合もある。皆さん方には、「これはおかしい。もう少しやってほしい」という思いがいくつもあると思うし、我々も同じ不満もあるが、それをいかに調整し、行政と議会と相互が話をしながら進めていって、県民福祉の向上や、いろいろな県政の発展、経済活動をするなどということを進めていくというところに、皆さん方との違いがあるので、それだけ申し上げたいと思う。女性の方々からも議員になりたいという思いを先ほどお聞きし、意を強くしたわけであるので、ぜひともお待ちしている。

【高校生からの質問】

本会議での質問にも多く出ていたように、今、福井県は、恐竜を押して観光戦略を打ち出しているけれども、県外の人にとっては目新しいかもしれないが、県内の人にとって恐竜は生まれたときから身近に当たり前にある存在である。県内の人に、自分の県にどう誇りをもってもらえるか、魅力を伝えてもらえるかに関しては、余り質問に出ていなかったもので、ここで質問したいと思う。県内の人にはどのように福井県の魅力を伝えていくつもりかお伺いしたい。

松井議員 全国の恐竜の化石の80%が勝山市北谷町杉山から出ている。まず、そういうところを一つの部類としてやっていただく。やはり現地へ行ってもらって、発掘体験をしてもらいたい。恐竜ばかりではなく、中には、昔の草や花、いろいろな鳥などの化石がたくさん、あの場所から出ているので、そういう体験をしていただいて、昔は恐竜がこのようなようだったか、4億5千万年前にはこのようなものがあつたのかということにたどり着いてもらった上で、福井県の恐竜博物館が世界では三つくらいの中で一つということをPRしてもらえればいいのではないかと思う。



中会議室

《参加議員》

山本芳男、関孝治、中川平一、田中宏典、島田欽一、細川かをり、辻一憲、宮本俊(傍聴)

《参加高校生》

羽水高校...高田優希、柿本紗世、宮崎優衣、出口雄十、吉川陽斗
武生東高校...墨崎有美、田中恵里惟、三国舞花、湊紗恵、藤木千春
福井商業高校...萩原香、橋本香乃

【高校生からの感想】

今回、このような貴重な経験を通して、福井県のことについても少しわかってきたので、今後もっと興味・関心を持っていきたいと思う。

きょうの経験を通して、議会の雰囲気を知ることができた。

県議会に参加するというすごく貴重な体験もできたとし、自分が日ごろ過ごしている生活の中で思っていたことを伝えることができてよかった。

小さい時からずっと、福井県を活性化するにはこうした方がいいのではないかと思っていたことがたくさんあったが、県議会でもいろいろなことを検討しながら考えた上で、福井県をよりよい県にしているということがわかったので、すごくいい経験になった。

議長役だったので、とても緊張したが、貴重な体験であった。高校生なりに考えたきょうの意見を議会でも参考にしてもらえたらと思う。



各学校の質問を聞いて、すごいと思ったが、それよりももっと多くの問題や改善しなければならぬことなどを福井県は抱えているのだなと思い、議員の方々はすごく大変だと思った。私も福井県のために何かできたらいいと考えられる機会になった。

この機会を通し、あらためて自分が住んでいる県について考え直すことができた。

高校生が考えた質問とその受け答えから、私が今まで知らなかった福井県の取り組みをたくさん知ることができ、政治に関心を持つことができた。こういう特別なことに参加できた私から、選挙に参加するという変化をしないといけないと思った。

大学進学で県外に出ようかと思っているのだが、今回の経験から、将来、就職するとき

には、また福井県に戻ってきて、福井県を活性化させるような、何か役立つことをやってみたいと感じた。

【議員からの感想】

細川議員 皆さん、とてもしっかりしているので、時々やって、本当に県職員の方に答弁してもらってもいいと思った。

それから、きょう参加された27人のうち、女性が19人である。そして、皆、しっかりしている。県議会は、37人のうち女性議員が3人しかいない。例えば10年後、せめて県議会議員の半分ぐらいは女性の議員が出てきてほしいと思っているので、すごく期待している。

田中宏典議員 最後の副議長の総評で、「何年後にここに帰ってきてくれることを期待している」とあったが、政治家になりたい人はいるか。

〔挙手する者なし〕

田中宏典議員 いない。私自身、34歳からこの世界に入った。それまでは、行政高浜町役場にいたのだが、自分が高校生の時には、皆さんと同じような思いを余り持っていなかったと思う。

何よりも、きょうの質問の前に、福井県のことを調べたり、まず、自分の身近なものとして勉強してもらえたことが一番良かったことかと思う。関係ないと無関心でいるよりも、関心を持って少しでも勉強してもらって、議員をやりたいと思う人が少しでも出てくれればうれしい。すごく関心を持ってもらえたことが大変うれしかった。

関議員 皆さん方、いい経験だったと思う。ものをはっきりと言うこと、どんどんしゃべること、これが福井県民の弱いところである。どうしても遠慮する空気がものすごくある。だから、高校生の時からどんどん意見を言うということ、そういうことを皆さんは堂々とやったのであるから、大いにそれを参考にして、これからすべてのことに堂々と行ってほしい。どんどん手を上げてやること、それが私の願いである。

山本芳男議員 私はこの道25年であるが、常に県民を思って政治の仕事をしている。これを忘れては、議員の資格はない。どうか皆さん、きょうの初々しい気持ちをこれからも持って、自分もやりたいという姿勢で、選挙に取り組んでほしいと思う。きょうは皆さん、非常にいい経験をされたと思う。これからも、努力に努力を重ねて邁進してほしい。



中川議員 皆さん、とても緊張したという話であるが、我々も常に緊張している。人の前で話しをするときは常に緊張するし、緊張しないといい話にはできない。普通は緊張するのである。しかしながら、皆さんはしっかりと発言していて、緊張して見えなかったので、素晴らしいと思った。

この場を借りて、皆さんに一つ伝えたいのであるが、日本の政治は基本的にいいのである。新聞などは、常に政治や政治家の悪口、批判ばかりするが、政治家は一所懸命頑張っている。例えば、日本は非常に豊かな国である。日本がそれだけ豊かな国になったということは、基本的に政治がいいのである。政治がいいから日本人がこれだけ豊かであるということを忘れていただきたい。基本的に、ほとんどの政治家は、国を思い、地域を思い、そして皆さんのことを思って、一所懸命やっている。新聞は批判ばかりするが、それは人の考えであるから、それぞれ自分の頭で、自分はどう思うかということを中心に冷静に考えてもらうといいと思う。そして、常に政治に関心を持ってほしい。そうでないと、政治家はおかしな方向に行く。これからもぜひ、しっかりと政治に関心を持ってほしい。

島田議員 私が高校の時には、こんなに政治のことも世間のことも思ったことがなかった。また、私の息子や娘は、高校時代に話をしても、政治の話なんてしたことがないし、地元のことも考えたことがない。皆さんすごいと思って、きょうは聞いていた。大きいことを考えずに、まず、自分の周り、自分の地元を一番よく考えて、いろいろと行動してもらえると、ありがたい。そしてまた、我々に意見を言ってほしいと思う。

辻議員 きょうは皆さん本当に緊張していたと思う。私も、つい2カ月ほど前に、初めて議場に立って質問をした。私は新米議員で、自分自身、とても緊張した。だから、皆さんの今の感覚が一番近いかもしれない。みんな緊張していて、それでよくあれだけのことをみんなの前で発言された。とても立派だと思う。今回皆さんは、参加をする中で、一所



懸命に議題をどうしようか考えたり、あるいは勉強したりした。そしてそれをきょう、発言して、答弁があって、また、いろんな方々の話や意見も聞けて、とても貴重な機会だったと思う。これをさらに今後も、議員になる、ならないに関係なく、社会の中で生きる一人の県民として、社会人として、そうした思いをしっかりと持って、勉強し続けていただきたいと思う。我々議員も一所懸命頑張ってい

きたいと思う。議員と、皆さん方県民と一緒にやっていくのが県政、政治であり、社会をみんなで作るということであるので、これからも一緒に頑張っていきたいと思った。

宮本議員 多分、議場での話よりもこちらでの話の方が、皆さんが言いたいことを言って楽しいのではないかと思い、傍聴に来た。きょう、答弁をさせてもらったが、政治を見ていくという中で、これから目先の自分たちの利害関係と、10年後、20年後にどうあるべきかということは、違うことがあると思う。そのときにどう考えるのかということをしつかりと考えて、目の前のことをどうするかということも、もちろん大事だが、いろいろな

データを見たり、自分なりの情報を得て、イメージではなく、自分なりのしっかりとしたつかみというものを持って、将来、自分たちが子供を持った時にどうなったらいいかということも考えてもらって、政治を見てもらえたらというのが私の思いである。議員をやっていると、どうしても、目の前のクレームとか、目の前の声などに流されてしまうけれども、それをやるために将来に大きな影響を残すこともあるので、それをきちんと見てほしいと思う。

【高校生からの質問】

いつから政治家になろうと思ったのか。

田中宏典議員　私が最初に影響を受けたのは、辻議員のお父さんからなのだが、二十歳ぐらいの時に青年団をやっていて、議員をやってみたいと考えるようになった。最初、町議会議員を11年間やって、県議会議員は5年前からである。特別何をしたのではない、一所懸命仕事をしてきた結果がこうなったわけである。

きょうの質問テーマとは別に、もう一通りテーマをつくってあったので、読んでほしい。
(事務局が代読した内容の概要)

福井の教育・文化について伺いたいと思う。

現在、福井県の小学生、中学生の学力は、全国学力調査の結果を見てもわかるとおり、全国1位の実力を誇っている。これは、どういう理由によるものだろうか。いくつかの要因が考えられると思うが、その中の一つに、小中学校の先生方が身を粉にして生徒に向き合っているということが挙げられると思う。私的な話になるが、私の母が中学校の教員をしている。母は毎朝、7時過ぎには家を出て、夜はほぼ毎日9時頃に帰宅するという生活である。ときにはそれより遅くなることもままある。私は母が一体、そんなに長い時間、どんな仕事をしているのだろうかと聞いてみたことがある。その内容をまとめてみた。(内容省略)

私は、母の勤務内容を聞いたとき、「これ、毎日やっているわけじゃないよね」と言ってしまった。でも母は、「これが毎日。そして、これは何もお母さんだけのことではない。ほかの先生もこれと同じだよ」と答えた。おわかりのように、中学校の先生は、朝の7時半から夜の9時まで、休む暇がないのである。もちろん、母を初めとする小中学校の先生方は、高い理想と崇高な志のもと、それぞれの職務についておられるのだと思う。このことを踏まえた上で、今後も「ふくいっ子」の健やかな学力・体力の保持を継続していくために、小中学校の環境をどのように整えていく議論があるのか、県の考えを伺う。また、小中学校で育まれた学力が、高校になると他県からおくれをとっているとも聞いている。その点についても、今後どのような考えであるのか、伺いたい。

細川議員　私は平成17年まで小学校に勤めていた。今、指摘されたとおりで、本当に忙しかった。私の子供が小さいころ、けがをしたのだが、付き添って病院に行くことすらできなかった。教室を手放すことができないというのは、教員の家庭が犠牲になっているというのが現状なのである。実際に、教員の多忙化をどのように解消するかというのは、実

は、議会の中でもたびたび話が出ている。けれども、では、根本的に教員の数をふやせるかと言われると、それもなかなか予算的に難しいものがある。乱暴な話、発表とか余計なことを一切合財やめたらどうかとか、いろんなことを言う。あるいはパソコンを入れたら分離化されるのではないとか、何とか多忙化を解消できる策を一所懸命考えてはいるの



だけれども、なかなか切りがない。最初に、学力が日本一なのは学校の先生のおかげということ言われたが、本当にそのとおりなのである。よく、他県からくると、例えば、休み時間などにもわからないところを教えとか、福井県の先生はすごく懇切丁寧にやっていて、塾の機能も兼ねていると言われるぐらいであるとか、本当に考えると切りがない。逆に、各先生方が、これをなくしたら少しは楽になるのではないかというようなことがあったら、どんど

ん教えてもらえれば、それを提案していく。提案をしても、それが解消されるかどうかというのは、私たちが決めるというよりは、学校の現場の先生方が決めることになってくるので、その辺を十分に話をしながらしていきたいと思う。でも本当に、家族として悩んでいるのはよくわかる。今、うちの息子もそんなことを考えていたのかと思い、涙が出そうになったぐらいである。

関議員 県議会でも今まで何回か議論したことはある。提案した県議会議員もいるのであるが、きょうは子供さんから生の声を話を聞いたのであるから、県議会でも一度検討する。

駅前商店街であるが、シャッターなどが閉まっている店が多く、どうにかならないのだろうか。毎年、「フェニックスまつり」に行くが、その時は、結構、人も来ていて、活気があふれていたが、祭りが終わった後にそこを通ってみると、本当に殺風景なので、どうにかならないかと思う。

山本芳男議員 今、一番悩んでいる。商店街の活性化である。県と福井市においては、十分に考えてもいるし、これからも取り組んでいく。

田中宏典議員 日本全国、どこのまちに行ってもシャッターが閉まっているところがふえていて、同じことをしていても無理かと思うし、逆に、皆さんがこういうことがあったらそこへ行くのということ提案してくれたらいいと思う。よそへ視察に行くと、よくシャッターが開いていない店を見かける。誰か人がいたら話も聞くのだが、みんなどうしたらいいだろうと言うけれども、自分がどこで何をしたいかということを考えてもらったらいいかと思う。それを商売に結び付けるのが一番いいかと思う。

宮本議員 交通の手段が変わってきたからだろうと思う。だから、商店街の役割がなく

なってきたのかもしれない。

中川議員　　今まで人は鉄道で移動した。車社会ではなかった。ところが、みんなが生まれる前の昭和 40 年代から車社会になってきて、人が車で移動するようになってきた。鉄道社会の時は福井駅でみんなおりたから、その周辺に散らばっているいろいろな買い物をしたのだけれども、車で移動になったことが一番大きい。それで、国が、昭和四十何年に大規模小売店舗立地法と



いって、大型店舗を認めた。だから今、大きな店があるだろう。ああいうものを認めたら、わざわざ駅前商店街に来る必要がない。それが一番大きな原因である。だから、何とかお客さんと呼ぶようにするにはどうしたらいいかという、私は無料の大きな駐車場をつくるもいいと思う。無料の大きな駐車場をつかって、それでも大きな店舗に負ける可能性は大きいけれども、ある程度のお客さんは呼び込める状態になると思う。まあ、いわば世の中の動きだから、しょうがない面もある。

島田委員　　金沢まで買い物に行く人もたくさんいる。どこが魅力的かを見てもらって、また我々に言ってもらえるといい。

関議員　　いろいろな意見があった。皆さん各テーマについて考えたのだと思う。素晴らしい意見だと思う。県議会でもよくこういうことを議論にしている。ただ、言いながら、どんな返事が返ってくるか読むことが大切である。皆さんの質問に対して、「素晴らしい意見だからやりましょう」という意見を言うか、「これから考えます」と言うか、「これは今、できません」と言うか、返事はどれかなのである。きょうの質問に対する答弁は、それぞれ違ってから何とも言えないけれども、原案をつくったときに、そういうことまであわせてやる。そうすると、質問に深みが出る。



下手に返事を返したら、またやり返す。けんかを売るのではない。けれど、そういうふうにしていかないと、話すということはなかなかできないのである。言いつ放しでは、少しも返ってこないで、中身が深まらない。だから、どんな返事が返ってくるか、こう言われたらこう言ってやろうと、そこまで考えると、質問に物すごく厚みができる。きょう、みんなの前で発言したのだから、このことをよく考えてこれからやった方がいいと思う。意見を言うということは、相手をやり込めるといことなのである。言ったからといって、相手が聞いてくれないと何にもならない。そのために意見を言うのである。そういうことで考えていかないといけない。

写真撮影



御協力いただいた皆様、ありがとうございました。